

平成30年度

履修の手引き

ソフトウェア情報学部
ソフトウェア情報学研究科



岩手県立大学

Iwate Prefectural University

目次

★学年暦

★用語集

★履修

1 はじめに.....	1
2 大学における学修について.....	2
3 授業.....	4
4 履修登録.....	6
5 試験.....	9
6 成績評価.....	11
7 卒業・修了及び学位.....	13
8 いわて創造教育プログラム副専攻の履修.....	14
9 他学部（学科）履修.....	17
10 いわて高等教育コンソーシアム単位互換制度.....	18
11 短期大学部開講科目の受講.....	20
12 語学科目における単位認定.....	22
13 学部等開講授業科目の聴講.....	23
14 長期履修学生制度.....	24

★ソフトウェア情報学部

全学ディプロマ・ポリシー(DP)

全学カリキュラム・ポリシー(CP)

I ソフトウェア情報学部の概要

1 ディプロマ・ポリシー (DP) カリキュラム・ポリシー (CP)	34
2 教育課程の内容.....	36
3 教育課程の特色.....	36
4 カリキュラム体系図.....	37
5 先修条件.....	38
6 先行履修制度.....	38
7 履修登録の上限.....	38
8 履修登録上限の緩和.....	38
9 進級要件.....	39
10 卒業要件.....	39
11 アドバイス体制.....	40
12 履修モデル.....	41

II 授業科目

1 基盤教育科目.....	49
2 専門科目.....	52

III 教育職員養成課程

1 教職課程.....	57
2 教育実習.....	57
3 免許状申請.....	58
4 免許状取得スケジュール.....	58
5 教職課程科目一覧.....	59

IV 履修登録下書き表..... 63

★ソフトウェア情報学研究科

I ソフトウェア情報学研究科

博士前期課程の概要

1 概要.....	77
2 教育研究領域.....	77
3 教育研究目標.....	77
4 ディプロマ・ポリシー (DP) カリキュラム・ポリシー (CP)	78
5 教育課程の内容・特色.....	79
6 履修指導及び研究指導の方法.....	80
7 修了要件.....	81

II ソフトウェア情報学研究科

博士後期課程の概要

1 概要.....	85
2 研究領域.....	85
3 教育研究目標.....	85
4 ディプロマ・ポリシー (DP) カリキュラム・ポリシー (CP)	86
5 教育課程の内容・特色.....	87
6 研究指導の方法.....	88
7 修了要件.....	88

III 教育研究領域

1 授業科目一覧表.....	91
2 研究室及び教育研究領域.....	92
3 履修モデル.....	93

IV 高等学校教諭専修免許状(情報)取得課程

1 高等学校教諭専修免許状(情報)取得課程.....	97
----------------------------	----

V 学位論文

1 修士論文.....	101
2 博士論文.....	102
3 審査日程及び提出書類等.....	103
4 学位論文の基本構成.....	105
5 各種様式.....	106

平成30年度 学 年 暦

	日	月	火	水	木	金	土	週	学 事
4 月	1	2	3	4	5	6	7	1 2 3	1日 学年開始 前期開始
	8	9	10	11	12	13	14		3日～6日 健康診断 4日 英語プレイズメント・テスト
	15	16	17	18	19	20	21		5日 入学式、オリエンテーション・在学生ガイダンス（～11日）
	22	23	24	25	26	27	28		10日～18日 履修登録期間 (10日(pm)、11日(am))は履修登録制限科目のみの登録)
	29	30							12日 前期授業開始 20日～23日 履修登録確認期間（24日履修登録確定）
		2	2	2	3	3			
5 月	6	7	8	9	10	11	12	4 5 6 7 8	4日 英語プレイズメント・テスト
	13	14	15	16	17	18	19		12日 体育祭
	20	21	22	23	24	25	26		14日～18日 履修取消期間
	27	28	29	30	31				30日 月曜日授業（水曜日授業休講）
			5	5	4	4	3		
6 月	3	4	5	6	7	8	9	8 9 10 11 12	16日 編入学試験（ソフト）
	10	11	12	13	14	15	16		19日 開学20周年記念行事(休講)
	17	18	19	20	21	22	23		
	24	25	26	27	28	29	30		
			4	3	4	4	5		
7 月	1	2	3	4	5	6	7	13 14 15 16 17	1日 オープンキャンパス
	8	9	10	11	12	13	14		6日 七夕祭
	15	16	17	18	19	20	21		14日 大学院第1次入学者選抜（ソフト研究科） 大学院学内推薦選抜（社福研究科）
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30	31						
		4	5	4	4	4			
8 月	5	6	7	8	9	10	11	17 18	2～8日、9日pm 前期授業等調整期間
	12	13	14	15	16	17	18		9日am 2年次「英語基礎演習」試験
	19	20	21	22	23	24	25		10日～9月24日 夏季休業期間
	26	27	28	29	30	31			13日～16日 全学一斉休業日（窓口閉鎖） 17日～23日 前期集中講義期間 24日～9月14日 学生センター時間短縮（～17:00） 25日～26日 電気設備定期点検による停電
			15	15	15	15	15		
9 月	2	3	4	5	6	7	8	19	6日 編入学試験（看護、社福、総政）
	9	10	11	12	13	14	15		11日～13日 A0入試2次選考（社福、ソフト、総政）
	16	17	18	19	20	21	22		15日 大学院第1次入学者選抜（看護、社福、総政研究科）
	23	24	25	26	27	28	29		21日 秋季学位記授与式、前期成績通知
	30								25日～10月3日 後期履修登録期間 (25日(pm)、26日(am))は履修登録制限科目のみの登録
				1	1			25日 秋季入学式 27日 後期授業開始	

注1 〔学期末試験〕は、各授業曜日末（15回）を目安としますが担当教員の指示に従ってください。

2 〔授業等調整期間〕とは、補講、補習及び試験に利用できる期間を言います。

3 〔集中講義〕は、原則として上記日程で行いますが、講師の都合により変更となる場合があります。

4 上記日程は変更になる場合もありますので、掲示等に注意してください。

5 : 授業日 : 学内立入制限日 : 授業等調整期間 : 集中講義期間 : 全学一斉休業日

用語集

オムニバス方式 (Omnibus)	ある一つのテーマに対し、複数の教員がそれぞれ独立した講義等を行い、一つの授業科目として成立させる授業方式。	
学期	学校において教授、学習、校務等の整理の便宜のために学年をいくつかに区切った期間。学則により定めており、本学の場合には前期と後期の2期制としている。なお、1年を数回の学期に区分し、各学期毎に授業を完結し成績評価を行う制度を「セメスター制」という。	
CAP制度 (Credit Cap System)	履修科目の登録に際し、学期ごとに履修することができる単位数に上限を定める制度。学習すべき授業科目を精選することにより十分な学習時間を確保し、授業内容の十分な理解を進めることを目的とする。本学では、四大においてこの制度を導入している。	
カリキュラム・ポリシー (CP) (Curriculum Policy)	教育課程の編成方針。各課程教育において、ディプロマ・ポリシーで定めた達成目標の実質化・体系化を図るための方策・手段。	
コンソーシアム (Consortium)	複数の個人、企業、団体、政府(又はこれらの任意の組合せ)により組織される団体。高等教育機関においては、近隣地域に立地する複数の大学等により高等教育及び学術研究の振興、地域社会への寄与等を目的として組織されることが多い。 岩手県では平成20年に「いわて高等教育コンソーシアム」が設置され、共同シンポジウム、構成大学間の単位互換、図書館の相互利用等の事業を実施している。加盟校は岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学、富士大学、岩手医科大学、岩手県立大学盛岡短期大学部、岩手県立大学宮古短期大学部、盛岡大学短期大学部、放送大学岩手学習センター、一関工業高等専門学校校の10校となっている。	
在学年限	在学することができる年限。本学においては、学部学生は休学期間を除き8年(岩手県立大学学則第8条)、盛岡短期大学部学生は4年(岩手県立大学盛岡短期大学部学則第8条)、研究科博士前期課程の学生は4年、博士後期課程の学生は6年(岩手県立大学大学院学則第6条)。	
試験	期末試験	学期末までに期間を定めて行うが、授業科目によっては、随時行われる試験。 試験の方法(筆記、口述発表、論文・レポート提出、実技又は作品制作等のいずれか、若しくはこれらの併用による)は、当該授業科目の各担当教員が決定し、実施している。
	追試験	所定の試験に欠席した者に対する試験。原則として行わないが、病気その他やむを得ない事情がある場合に限り、願い出により追試験を受けることができる(岩手県立大学履修規程第8条)。
	再試験	試験を受験して不合格になった者に対する再度の試験。原則として行わないが、やむを得ない事情により教授会で認められた場合には、願い出により再試験を受けることができる(岩手県立大学履修規程第9条)。
	不正行為	試験(期末試験、追試験、再試験)において不正行為をした者は、学則の規定による懲戒処分のほか、履修規程の規定による成績「不可」の措置がある。
再履修	単位を修得することができなかった(「不可」の評価を受けた)科目を、次学期以降に改めて履修すること。再履修により「可」以上の評価を受けた場合には、GPAの算定において前学期以前の「不可」の評価は除外される。	
GPA制度 (Grade Point Average)	学生毎の成績を履修単位当たりの平均値により表す制度。成績が数値化されることにより、学生の学習意欲の向上、厳格な成績評価、適切な修学指導への効果等を目的としている。 本学においては、5段階の評価(秀、優、良、可、不可)にそれぞれ4~0のGP(グレードポイント)を与え、この点数の履修単位当たりの平均値を算出するものとしており、対象となる科目は学部により異なる。学期GPAと通算GPAが事務管理公開システムにより表示される(岩手県立大学グレードポイントアベレージ制度運用規程)。	
自由聴講科目	自由選択により履修することができるが、卒業に必要な単位として算定されない科目。	
修業年限	卒業(修了)するために必要となる、学校に在学する年限。本学の場合、学部は4年(岩手県立大学学則第7条)、盛岡短期大学部は2年(岩手県立大学盛岡短期大学部学則第7条)、研究科博士前期課程は2年、博士後期課程は3年(岩手県立大学大学院学則第5条)。	
集中講義	通常の授業とは別に、主として他大学等の教員により特定の日時に集中して行う授業。夏季・春季休業期間中に「集中講義期間」が設けられる。	
授業等調整期間	正規の授業期間内に休講となった科目の補講又は学期末の試験を集中的に実施する期間。この期間は特別な時間割が作成され、掲示により周知される。	

シラバス (Syllabus)	授業計画の詳細を示す資料。授業の全体概要、各回の授業内容、成績評価の基準及び方法、教科書・参考書籍等が示される。本学においては、事務管理公開システム又は大学ホームページから参照することができる。	
先修条件	ある授業科目を履修するに当たって、その前に履修しておく必要がある別の授業科目その他の必要な条件(岩手県立大学履修規程第11条)。	
選択科目	自由選択により履修することができるが、その中から卒業に必要となる所定の単位を修得しなければならない科目。	
卒業(修了)要件	卒業(修了)するための要件。大学の場合には、4年以上在学し、124単位以上を修得するものとされている(大学設置基準第32条)。短期大学の場合には、2年以上在学し、62単位以上修得するものとされている(短期大学設置基準18条)。大学院の場合には、博士前期課程は2年以上在学し、30単位以上修得、かつ、修士論文の審査及び試験に合格すること、博士後期課程は大学院に5年(修士課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、博士論文の審査及び試験に合格することとされている。(大学院設置基準第16条、第17条)。 修得が必要となる授業科目及び単位数の内訳については、学則別表に学部・研究科毎に定められている。	
単位互換	短期大学、四年制大学や大学院が相互に他大学の学生の聴講を認め、学生が在学以外の大学の授業に出席し所定の試験に合格した場合には、その結果を在学における単位として認定する制度。	
単位制度	単位を基準として学習量を測る仕組み。1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容で構成することが標準とされており、授業の方法に応じた単位の計算方法が次のとおり定められている(大学設置基準第21条第2項)。 ①講義及び演習:15時間～30時間の授業をもって1単位 ②実験、実習及び実技:30時間～45時間の授業をもって1単位 ※卒業論文、卒業研究、卒業制作等については、これらに必要な学修等を考慮して定められる。	
長期履修学生制度	学生が職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを認める制度(大学院設置基準第25条)。本学では、大学院においてこの制度を導入している(岩手県立大学大学院学則第13条の2)。	
教育アシスタント	ティーチング・アシスタント(TA) (Teaching Assistant)	教育の補助業務を行う学生。大学院生を対象として、学部学生等に対する助言や実験・実習・演習等の授業補助業務を行わせることにより、大学院生への教育トレーニング機会の提供と、手当の支給による経済的支援を目的としている。
	スチューデント・アシスタント(SA) (Student Assistant)	学士課程の学生を授業の補助業務に携わらせる場合、TAとは区別してスチューデント・アシスタント(SA)という。
ディプロマ・ポリシー(DP) (Diploma Policy)	学位授与の方針。卒業(修了)までにどのような能力の習得を目指すのか、学生が達成すべき具体的な学習成果を設定したもの。	
ピア・サポート (Peer Support)	ピア(仲間)同士によりサポート(支援・支え合い)を行う仕組み。大学においては、生活面や学習面等において先輩や友人が相談相手となる等の制度をいう。	
必修科目	卒業要件として必ず修得しなければならない科目。	
プレイズメント・テスト (Placement Test)	習熟度別クラス分けのための試験。本学においては「英語基礎演習」・「英語実践演習」科目において受講者の習熟度水準に応じた授業を行うために実施している。	
履修制限科目	教育効果の観点、又は教室の収容定員の関係上、履修者の人数制限を設ける科目。本学においては、他の科目とは別に履修登録日(時間)を設け、システムによる抽選で履修者を決定する。	
履修登録	各学期の初め(年2回)に、学生自らが履修しようとする授業科目を登録する必須の手続。この手続を行わずに授業や試験を受けても単位を修得することはできない。	
履修取消制度	履修登録科目確定後、「授業の内容が自分の関心と異なっていた」「授業についていけない」等の事情が発生した場合に、履修放棄によるGPAの低下を防ぐための措置として、履修登録の取消しをすることができる期間。取消しのみ認められ、新たな科目の登録をすることはできない(岩手県立大学履修規程第4条の2)。	

履 修

1 はじめに

1. 履修の手引き

本書「履修の手引き」は、皆さんが本学で学業を進めていく上で必要な、履修に関する事項を学則や履修規程等に基づいて編集したものです。

卒業するまで常に手元に置いて機会あるごとに参照し、正しい認識のもと履修計画に役立ててください。

2. 掲示・連絡

大学では、学生への通知や連絡を、すべて**掲示**により行います。

履修や授業に関わる情報は、**本部棟・共通講義棟間通路と、各学部棟入口にある電子掲示ボード**により通知します。授業や試験等に関わる重要な情報ですので、必ず毎日確認してください。掲示された事項は学生全体に周知されたものとみなされます。

また、学生個人宛にメールで連絡を行うこともあります。メールチェックも定期的に行うようにしてください。

掲示やメールによる連絡を見落としたことにより不利益を受けた場合でも、自己責任となりますので十分注意してください。

3. 相談窓口

履修に関することで分からないことがある時、呼び出しを受けた時は、本部棟1階の学生センターにお問い合わせください。

4. Web学生便覧

本書のほか、岩手県立大学ホームページ内「Web 学生便覧」には、履修関係の重要な情報を随時掲載しています。定期的に確認してください。

また、各種証明書の申請用紙をダウンロードできます。

岩手県立大学ホームページ内「Web 学生便覧」アドレス

<http://www.iwate-pu.ac.jp/living/gslife/index.html>

- ・学年暦
- ・時間割
- ・シラバス
- ・学則、履修規程などの規程集
- ・各種様式(証明書交付願、欠席届など)

(参考)履修に関する諸規程

- ・岩手県立大学学則
- ・岩手県立大学大学院学則
- ・岩手県立大学学位規程
- ・岩手県立大学履修規程
- ・岩手県立大学副専攻規程
- ・岩手県立大学大学院各研究科履修規程
- ・岩手県立大学グレードポイントアベレージ制度運用規程

Web学生便覧
QRコード



2 大学における学修について

1. 履修とは

大学では、学位修得(卒業)に向けて必要な科目を選択し、授業を受けます。卒業までには多くの科目の授業を受ける必要がありますが、それらの科目を各自の目標に応じて習い修めていくことが「履修」です。

履修は、本学の学則や履修規程等に沿って行われます。その中で、どの授業を履修するのか、学期毎の時間割はどうするのかなど、大学において何をどのように学んでいくのかを決めるのは学生自身ですので、一人一人がよく考えて履修を進める必要があります。

2. 履修計画

大学における科目履修は、自らの責任において履修計画を立て、卒業に必要な単位を自主的に修得していくことに特徴があります。

履修の方法を誤ると、進級や卒業、資格取得に影響を及ぼすことがあります。以下の資料を熟読し、しっかりと履修計画を立ててください。

- 授業時間割表(事前配布又は Web 学生便覧)
- 授業科目一覧表(履修の手引き掲載)
- シラバス(事務管理公開システムから参照)

また、毎年4月に行われる各種ガイダンスは、履修関係の重要な情報を得る機会ですので必ず出席してください。

3. シラバス

シラバスとは、授業の内容や進め方などを記した授業計画書のことです。履修する科目を選択したり授業を受けたりするにあたり、大切な情報が記載されています。シラバスをよく読むことにより、その科目に関する具体的なイメージを持つことができるとともに、各自の履修計画における各科目の位置づけを把握することもできます。

シラバスは年度毎に更新され、前期開講科目と後期開講科目のいずれも年度の開始時には公開されます。履修登録前には、当該学期に開講される科目のシラバスに必ず目を通し、履修する科目選択の参考にするとともに、その授業の学修目標をしっかりと理解した上で授業にのぞむことが重要です。

シラバスの記載内容

- 授業科目名(英語名)
- 担当教員
- 教育課程
- 開講年次
- 授業形態
- 資格対応
- 授業のねらい・概要
- キーワード
- 学修目標
- 授業の計画
- 教科書【学生が必ず準備するもの】
- 参考書等
- 授業の形式
- 成績評価の方法
- 授業前、授業後の学修
- 履修にあたっての留意点

シラバス検索画面
QRコード



4. 単位制度

単位とは学修時間を表す名称で、個々の授業科目について所定の時間を履修し、試験その他の方法により合格と判定されたときに与えられます。

単位数は授業科目ごとに定められ、卒業に必要な単位数(卒業要件単位数)は、学部ごとに定められています。

各授業科目の単位数は、**1単位の授業科目を教室内、教室外を合わせて45時間の学修を必要**とする内容で構成され、次の基準により算定されます。

講義、演習	15時間～30時間の範囲内で定める時間の授業をもって1単位とする。
実験、実習、実技	30時間～45時間の範囲内で定める時間の授業をもって1単位とする。
卒業研究・制作等	必要な学修等を評価して所定の単位を与える。

自学自習について

単位を修得するためには、教室内の学修(授業)だけでなく、教室外の学修(自学自習)を合わせた十分な学修が必要です。担当教員の指示に従いながら、主体的に取り組みましょう。

(参考)例えば、2単位修得するためには…

1単位45時間の学修が必要ですから、2単位の講義科目で単位を修得するためには90時間の学修が必要ということになります。90時間の内訳は、授業15回で30時間(1回の授業時間90分は2時間として換算します)、残り60時間がその授業に対する自学自習に要する時間です。

	1授業あたりの学修時間	1学期当たりの授業	合計時間数
授業	2時間	15回	30時間
自学自習	4時間	15週	60時間
計			90時間

1回の授業につき、
4時間の自学自習が必要!

3 授業

1. 授業時間(滝沢キャンパス)

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

2. 授業の実施場所

授業は共通講義棟や各学部棟などで行われます。

それぞれの授業の実施場所は、授業時間割で確認してください。教室の場所が分からない時は、「**学生便覧**」のキャンパスガイドで調べることができます。

3. 教室変更

授業の担当教員の判断により教室を変更することがあります。

4. 休講

大学の行事又は授業担当教員の公務、出張、病気等の理由により授業ができなくなった場合は、休講になります。

教員の事前指示や休講・教室変更の掲示がなく、授業開始時刻から30分経過しても教員が教室にこない場合には、学生センターに確認し、指示を受けてください。

5. 補講

休講となった授業に対しては、原則として補講が行われます。

6. 授業の欠席

傷病、忌引等のため授業を欠席する場合の取扱い(届出が必要かどうか、提出方法をどうするか、届出理由を成績評価に考慮するか否か等)は、各学部等や授業担当教員の判断に任されています。

シラバスやガイダンス等で各授業での届出の要否・方法を確認のうえ、届出の必要な授業のみ欠席届を提出してください。

(注) メールによる提出については「Web 学生便覧」に標準様式を掲載しています。

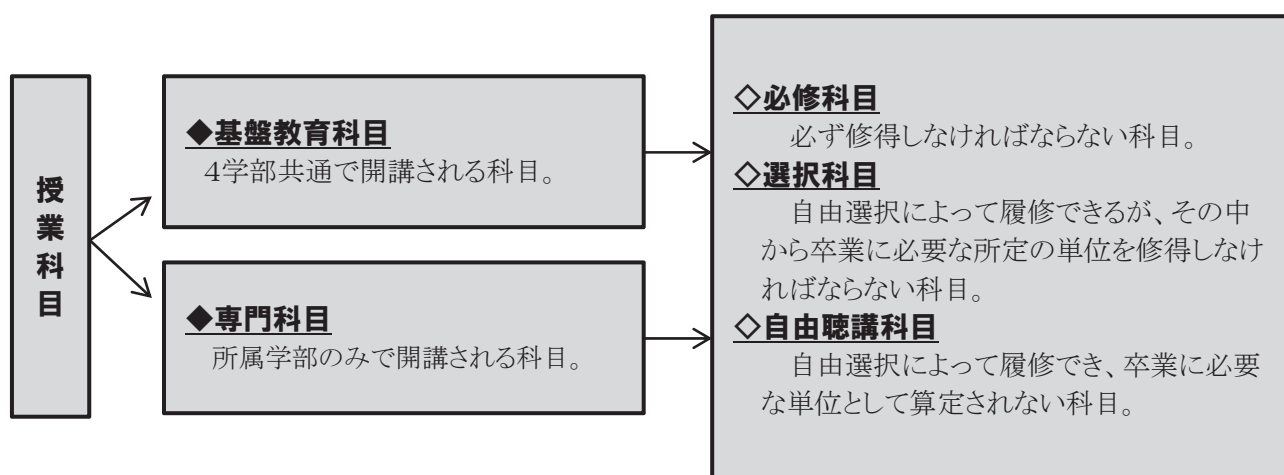
7. 特別な授業期間

通常の授業期間の他に、下記のような授業期間が設けられています。

集中講義期間	一定期間に集中して授業を行う授業科目があります。集中講義は、主に8月中旬・下旬、2月中旬に行われます。
授業等調整期間	通常の授業期間内に休講となった科目の補講や、試験が実施される期間。この期間の授業等は、通常とは違う時間割で行われます。

8. 授業科目の分類

授業科目は、学部の場合、次のように分類されます。



なお、研究科は、それぞれのカリキュラムを参照してください。

4 履修登録

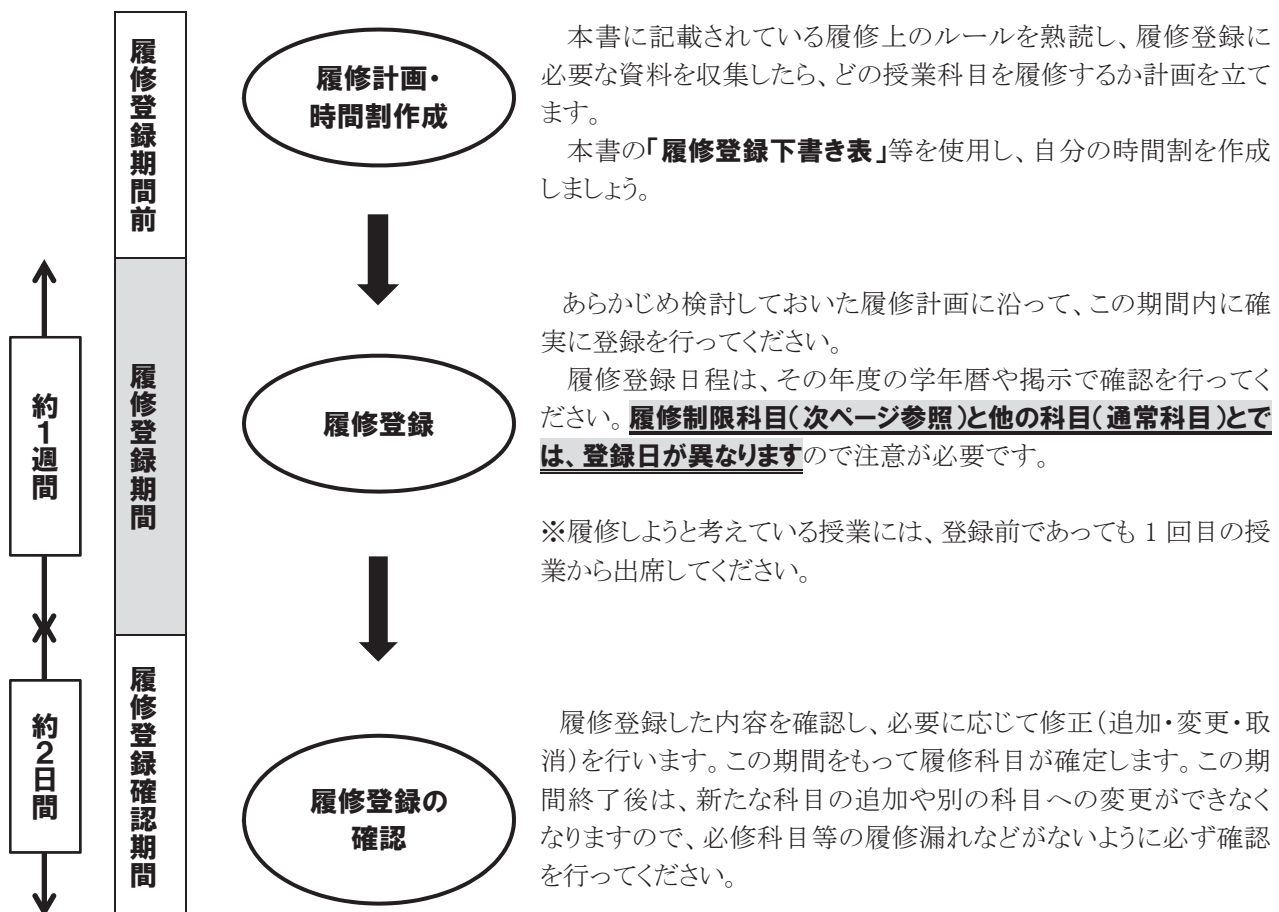
1. 履修登録について

履修登録は、毎学期の初めに、学生自らが履修しようとする授業科目を登録する必須の手続です。学生は、情報端末により、事務管理公開システムで各自履修登録を行います。なお、情報端末操作方法は、「学内情報システム操作マニュアル」を参照してください。

この手続きを行わずに授業に出席し、試験を受けても単位を修得することはできません。

履修登録の流れや方法をしっかり理解し、各自確実に履修登録を行ってください。

2. 履修登録の流れ



3. 履修取消期間

履修登録を行い、約1ヶ月間授業を受けてみて、当初の目的が達成される見込みがない等の理由がある場合には、この期間中に履修登録を取り消すことができます。履修の取消には、「履修取消届」の提出が必要です。

これは、履修放棄による「不可」評価でGPA数値(「6 成績評価」参照)が低下することを防ぐための措置として設けているものです。

4. 履修制限科目について

教養科目、保健体育科目、外国語科目、ソフトウェア情報学部の一部の専門科目など履修者数に制限を設けている科目があります。

履修制限科目と定員数、及び履修登録スケジュールの詳細は、掲示によりお知らせします。

履修者の決定は抽選により行い、その結果、残枠が出た科目については先着順で登録を受け付けます。

履修制限科目の履修登録にあたっては、**当選後に履修取消をすることがないよう**、以下のことに十分に注意してください。

- ◆ 同じ曜日、時限に専門科目の必修科目など必ず履修しなければならない授業がないか、時間割表をしっかりと確認してください。
- ◆ 各学期に履修できる単位数の上限が決まっています。その上限を超えないよう、履修制限科目とそれ以外の科目の合計単位数を履修登録前に必ず計算してください。
- ◆ 教養科目、保健体育科目、外国語科目は、1つの曜日、時限で第3希望まで登録することができます。むやみやたらに登録するのではなく、履修計画をしっかりと立て、当選した場合に必ず履修する意思がある科目だけを登録してください。

5. 履修登録の注意事項

履修できない科目

- ・履修登録をしていない授業科目
- ・既に単位を修得した授業科目
- ・授業時間帯が重複する授業科目(隔週開講科目除く)
- ・先修条件のある科目で、履修希望者がその条件を満たしていない場合

通年開講科目

前期開講科目は前期、後期開講科目は後期にそれぞれ履修登録を行うのが原則です。ただし、通年開講科目の場合は、前期に履修登録を行うと後期は自動的に履修登録が行われます。

実習科目・集中講義科目

曜日・時限毎に登録する画面の下に、集中講義と実習の項目がありますので、忘れずに登録を行ってください。

配当年次と履修時期

授業科目には履修できる年次の制限(開講年次)があり、自分の年次と同じ、又は下位の開講年次の授業科目は履修できますが、上位の開講年次の授業科目は履修できません。

再履修

単位の修得が認められなかった科目は、他の履修希望科目との時間割が重複しない場合限り、後年に再履修することができます。英語はクラス分けがあるため、学内掲示をよく確認し、指示に従って手続きしてください。

科目の追加・変更

履修取消期間における履修取消を除き、履修登録確認期間終了後の科目の追加や変更は認められません。

6. 基盤教育科目の履修登録

基盤教育科目の履修登録は、下記の事項に注意して行います。

英語

入学時と1年次後期末に行われる英語プレイズメント・テストの結果により所属クラスが指定されます。クラス編成は**共通講義棟の教務関連掲示板に掲示**しますので、指定されたクラスの開講曜日・時限の授業科目を履修登録してください。

指定クラス以外のクラスに履修登録しても、履修は認められません。

情報処理

英語科目の所属クラスを基準として全 9 クラスに編成されます。**英語科目と同様に、指定されたクラスの**授業科目を履修登録してください。

ただし、編入学又は再履修の場合に限り、指定クラス以外での履修登録が可能です。この場合、受講人数の上限が設定されますので、学生センターに相談してください。

入門演習

「基礎教養入門」と「学の世界入門」は、学部毎に分かれて開講される科目です。

必ず自分の所属の学部のクラスで履修登録をしてください。他学部のクラスでの登録は、認められません。

地域学習

「いわて創造実践演習」は、履修するための条件が設けられています。詳細は、P.14 の「2. 副専攻の内容『キャップストーン科目』」を参照してください。

教養科目

一部科目を除き、受講人数制限(原則として 100 名)があります。科目毎の詳細は掲示により案内します。

「いわて創造学習Ⅱ」は、履修にあたって先修条件として、「いわて創造学習Ⅰ」の単位修得が必要です。

保健体育

1 週間に複数回の授業が開講されることがあります。シラバスで授業内容を確認し、他の科目の時間割との重複に注意しながら、いずれか 1 回の曜日・時間帯の科目を選択してください。

科目	前期	後期	定員
健康科学	週 2 回	週 1 回	110 名
体育実技	週 5 回	週 4 回	1クラス 30～40 名

外国語

日本語を除く外国語Ⅰ(中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語)は、各時限に受講人数制限があります。使用教室によって定員が異なりますので、科目毎の詳細は掲示により案内します。

また、外国語Ⅱ～Ⅳの科目(日本語を除く)には、先修条件が設定されています。外国語Ⅱを履修するためには、外国語Ⅰの単位修得が必要です。

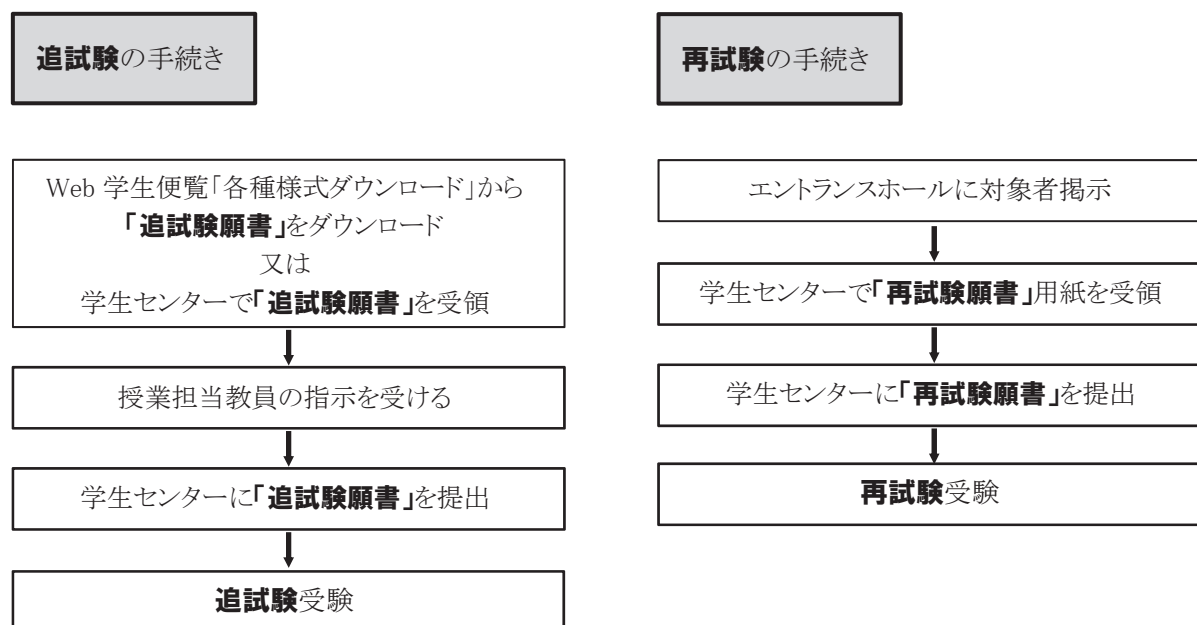
5 試験

1. 試験の種類

期末試験・ 随時試験	期末試験は、概ね授業最終日に実施されます。ただし、授業の担当教員が必要と認めたときは随時試験が行われ、これをもって期末試験の代わりとすることがあります。
追試験	所定の試験に欠席した者に対する試験。原則として行わないが、病気その他やむを得ない事情がある場合に限り、願い出により追試験を受けることができます。
再試験	試験を受験して不合格になった者に対する再度の試験。原則として行わないが、やむを得ない事情により教授会で認められた場合には、願い出により再試験を受けることができます。

2. 追試験・再試験の手続き方法

追試験および再試験の手続きは、それぞれ以下のように行います。



3. 試験の方法

試験は、筆記、口述、レポート提出、実技、実習等により行われます。

4. 受験上の注意

- 履修登録をしていない授業科目の受験は認められません。
- 試験の受験に際しては、学生証を机上に提示してください。
- 試験において**不正行為**をした者は、学則による懲戒処分を受けるほか、当該学期の成績「不可」の措置があります。

不正行為の取扱い

試験における不正行為とは、次に掲げる行為をいいます。

- (1) 試験監督者の指示や注意に従わないこと。
- (2) 代人として受験すること、又は、代人に受験させること。
- (3) 試験解答用紙を交換すること。
- (4) カンニング・ペーパー及びそれに類するメモ類等の用意、又は、それらを使用すること。
- (5) 所持品、身体、机、壁等に解答及びそれに類するものを書き込むこと。
- (6) 使用が許可されていない書籍、ノート等を使用すること。
- (7) 使用が許可されている書籍、ノート等を貸借すること。
- (8) 解答を写させること、又は、写しとること。
- (9) 他人の解答を盗み見ること。
- (10) 声、動作等で解答を伝達すること、又は、伝達を受けること。
- (11) 作成者の許諾の有無に係わらず、他人が作成したレポートを盗用し、自分の文章として提出すること。
- (12) レポートに出典を明記せずに、文献やインターネット、電子書籍の記述・内容をコピーし、レポートに利用すること。
- (13) 他人に依頼し、または他人の依頼を受けてレポートを作成すること。
- (14) その他、これに類する行為を行うこと。

6 成績評価

1. 成績評価の方法

成績は、試験の成績、平常の成績及び出席状況等を総合的に判断して評価されます。評価方法は授業科目ごとに異なり、シラバスに記載されています。

2. 単位認定・成績通知

成績の評価は次のとおりです。合格した場合には所定の単位が与えられます。成績について文書による通知は行いませんので、学期末に各自で事務管理公開システムにより確認してください。

◆評点を付す授業科目

評価	GP	評点	成績評価の定義	
合格	秀	4	90 点以上	目標を上回る特に優れた水準に達している。
	優	3	90 点未満 80 点以上	目標に関して十分な水準に達している。
	良	2	80 点未満 70 点以上	目標に関して事前に想定される標準的な水準に達している。
	可	1	70 点未満 60 点以上	目標に関する基本的な水準に達している。
不合格	不可	0	60 点未満	目標に関する基本的な水準に達していない。

※「GP」は「グレードポイント」の略であり、「GPA」の算定のために利用されます。

◆評点を付さない授業科目

ごく例外的に特別な事情がある場合のみ、合格または不合格の評価を行うことがあります。

成績評価	評点
合格	60 点以上相当の評価
不合格	60 点未満相当の評価

3. GPA制度

GPA(Grade Point Average)制度は、主に米国の大学で一般的に行われている成績評価方法の一種で、学生ごとの履修科目の成績の平均を数値により表すものです。

GPAは「学期GPA」と「通算GPA」の2種類が算定されます。学生自身の成績が具体的な数値として表されるため、自主的な履修計画や学修目標の設定に利用することが可能となります。

また、自分の成績が学部内でどの程度の位置にいるのかを把握する目安とするため、学期ごとに学部別の通算GPAの平均値を学内ホームページで公開します。

GPAの計算

学期GPA	通算GPA
$\frac{\text{(当該学期に評価を受けたGPA対象科目で得たGP} \times \text{当該科目の単位数)の合計}}{\text{当該学期に評価を受けたGPA対象科目の単位数の合計}}$	$\frac{\text{(在学中に評価を受けた全GPA対象科目で得たGP} \times \text{当該科目の単位数)の合計}}{\text{在学中に評価を受けたGPA対象科目の単位数の合計}}$

GPA対象科目

GPA算出の対象となる科目は、学部毎に異なります。授業科目一覧で確認してください。

GPAの通知

学期末の成績通知と同時に、事務管理公開システムにより確認することができます。

4. 既修得単位の認定

本学に入学する前に大学等において履修した授業科目について修得した単位は、本学における授業科目の履修により修得した単位として認められることがあります。この場合、既修得単位認定申請書に所定の書類を添えて学生センターに提出する必要があります。

認定できる単位数は、下記のとおり上限が定められています。

	修得単位認定上限
岩手県立大学	60 単位
岩手県立大学盛岡短期大学部	30 単位
岩手県立大学大学院	10 単位

なお、本学3年次への編入学生に対する既修得単位の認定は、別に定められています。

7 卒業・修了及び学位

1. 学部

4年以上在学し所定の単位数を修得した学生には卒業が認定され、次の学位が授与されます。

学部	学位
看護学部	学士(看護学)
社会福祉学部	学士(社会福祉学)
ソフトウェア情報学部	学士(ソフトウェア情報学)
総合政策学部	学士(総合政策学)

2. 大学院

博士前期課程

2年以上在学して所定の単位数を修得し、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格した学生には修了が認定され、次の学位が授与されます。

研究科	課程	学位
看護学研究科	博士前期課程	修士(看護学)
社会福祉学研究科	博士前期課程	修士(社会福祉学)
ソフトウェア情報学研究科	博士前期課程	修士(ソフトウェア情報学)
総合政策研究科	博士前期課程	修士(総合政策又は学術)

博士後期課程

3年以上在学して必要な研究指導(看護学研究科及びソフトウェア情報学研究科にあつては所定の単位数の修得を含む)を受け、博士論文の審査及び試験に合格した学生には修了が認定され、次の学位が授与されます。

研究科	課程	学位
看護学研究科	博士後期課程	博士(看護学)
社会福祉学研究科	博士後期課程	博士(社会福祉学)
ソフトウェア情報学研究科	博士後期課程	博士(ソフトウェア情報学)
総合政策研究科	博士後期課程	博士(総合政策又は学術)

8 いわて創造教育プログラム副専攻の履修(学部)

副専攻「いわて創造教育プログラム」は、主専攻(所属学部の学問分野)の学習に加え、「地域」を共通のテーマとして学部の枠を超えて学習する制度です。次の4つの能力を育成することを目的としています。

- ① いわてを知り、理解する力(情報収集力・理解力)
- ② いわてを説明する力(発信力)
- ③ いわてを「つなぐ」力(コミュニケーション力、実践力)
- ④ いわての未来を創造する力(課題解決力、企画力、行動力、創造力)

1. 副専攻の履修方法

副専攻を修了するためには、別に指示する方法により副専攻の履修を申請し、基盤教育科目と専門科目のうち「地域志向科目」として指定された科目を所定の単位数以上修得することが必要です。

区分	科目名	修了要件単位数
コア科目	いわて創造入門	2単位
地域志向基盤教育科目群	基盤教育科目(教養科目)のうち、地域志向科目として指定された科目	4単位以上
地域志向専門教育科目群	専門科目のうち、地域志向科目として指定された科目	4単位以上
キャップストーン科目	いわて創造実践演習	2単位
	合計	12単位以上

2. 副専攻の内容

コア科目

コア科目「いわて創造入門」は全学部に通じた必修科目です。基盤教育科目の基礎科目(地域学習)の中に含まれており、1年前期に開講します。岩手県内の現状や地域課題等を踏まえながら、本学の目指す方向性や教育・研究の特色、地域貢献の取り組み状況等を理解していくことを目的としています。

地域志向基盤教育科目

地域志向基盤教育科目は、教養科目のうち「地域志向科目」として指定された科目を指します。副専攻を修了するためには、2科目4単位以上を履修することが必要です。

地域志向専門教育科目

地域志向専門教育科目は、各学部の専門科目のうち「地域志向科目」として指定された科目を指します。副専攻を修了するためには、2科目4単位以上を履修することが必要です。

キャップストーン科目

キャップストーン科目「いわて創造実践演習」は、基盤教育科目の基礎科目(地域学習)の中に含まれており、3年・4年の後期(集中講義)に開講する副専攻の必修科目です。これまでの地域における学びを振り返り、自分ができる地域貢献について考察します。履修するためには、以下の条件を満たしていることが必要です。

- ・ コア科目:2単位修得済
- ・ 地域志向基盤教育科目:4単位修得済
- ・ 地域志向専門教育科目:2単位修得済 且つ 2単位修得見込

3. 副専攻の称号

副専攻の全課程を修了した学生に対し、『**いわて創造人材**』の称号と認定証を授与します。この認定証は、岩手県内での就職活動等に活用されることを想定しています。

4. 注意事項

他学部が開講する地域志向専門教育科目の履修を希望する場合は、「他学部(学科)履修」(P.17)により所定の手続が必要です。

5. 地域志向科目一覧

		科目名	単位数	備考
コア科目		いわて創造入門	2	必修 2 単位
地域志向 基盤教育 科目群	テーマ科目	地域社会と健康	2	選択 4 単位以上
		子どもと環境	2	
		人間と職業	2	
		地域社会とボランティア	2	
		地域と情報	2	
		岩手のなりたちと自然災害	2	
		地域コミュニティとまちづくり	2	
		プロジェクト科目	プロジェクト A[いわて学 A]	
	プロジェクト B[いわて学 B]	2		
	プロジェクト C[岩手のまちづくり]	2		
	プロジェクト D[いわての山の自然学]	2		
	いわて創造学習 I	2		
	いわて創造学習 II	2		
	地域志向 専門教育 科目群	看護学部 専門科目	地域看護学概論	
地域看護システム論 I			1	
地域看護活動論 I			1	
地域看護学実習 I			2	
老年看護学実習			3	
学校・産業看護論			1	
社会福祉学部 専門科目			地域福祉論	2
		地域社会学	2	
		地方福祉行政論	2	
		地域ケアシステム論	2	
		コミュニティ組織論	2	
		地域福祉調査実習	2	
		コミュニティ福祉サービス実習	2	
ソフトウェア 情報学部 専門科目		起業論	2	
		プロジェクト演習 I	1	
		プロジェクト演習 II	1	
		インターンシップ I	1	
総合政策学部 専門科目		総合政策入門	2	
		地方自治論	2	
		地域活性化論	2	
		地理学	2	
		中小企業論	2	
		地域環境計画論	2	
		地域災害論	2	
		地域交通論	2	
		現代農村社会論	2	
		地域経済論	2	
		農業政策論	2	
		地場産業・企業研究	2	
		政策課題実習	2	
		経営実習	2	
		経済実習	2	
		環境調査実習 I	2	
		環境調査実習 II	2	
		地域環境調査実習	2	
		地域調査実習 II	2	
		地域社会調査実習	2	
		インターンシップ	2	
		フィールド研究	2	
		キャップストーン科目	いわて創造実践演習	2
副専攻の修了に必要な単位数				12 単位以上

9 他学部(学科)履修(学部)

本学では、学修の幅を広げるため、所属する学部・学科・コースカリキュラムに指定されていない他学部(学科)の授業科目(実験及び実習科目等を除く)の履修を認めています。

1. 履修できる科目

開講科目は、各学期の履修登録期間中に配布する「他学部(学科)履修開講科目一覧表」に掲載されています。

また、各授業科目には履修できる年次の制限(開講年次)があり、履修できるのは原則として自分の年次と同じ開講年次の授業科目、及び下の開講年次の授業科目に限られます。

ただし、特別の事情がある場合は、自分の年次より上の開講年次の授業科目を履修できることがありますので、事前に学生センターに相談してください。

2. 申請方法

募集要項を参照の上、「他学部(学科)授業科目履修申請書」の必要事項を記入し、学生センターに提出してください。

申請には、授業担当教員の許可及び所属学部の担当教員等の指導が必要な場合がありますので、募集要項をよく確認の上、申請してください。

なお、申請は各学期の履修登録期間中に受け付けます。

3. 単位認定

他学部(学科)で修得した単位は、所属学部(学科)の卒業要件単位として認定されることがあります。その取扱いは、所属する学部により異なりますので注意してください。

所属学部・学科	卒業要件単位への算入
看護学部 看護学科	認めない。
社会福祉学部 社会福祉学科 人間福祉学科	「展開科目」について、他学部(学科)の専門科目を、4単位を上限として認める。事前に教務委員の指導を得ること(学部内両学科間の他学科履修の場合を除く)。
ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学科	認めない。
総合政策学部 総合政策学科	「展開科目」について、他学部の専門科目を、8単位を上限として条件付きで認める。申請の前に教務委員長の指導を得ること。

4. 注意事項

- 履修を希望する科目が複数の学部にあたる場合には、申請書を開講学部ごとに作成してください。
- 履修決定後でも、教室の収容人数の都合等により決定を取り消すことがあります。

10 いわて高等教育コンソーシアム単位互換制度(学部)

岩手県内の高等教育機関により組織する「いわて高等教育コンソーシアム」では、単位互換制度を導入しており、構成大学相互の授業を履修することができます。

1. 学生の身分

本学の学生が他大学の授業科目を履修する場合は派遣学生、他大学の学生が本学の授業科目を履修する場合は特別聴講学生となります。

2. 出願資格

出願時において学部の1年生から4年生に在学している学生が出願することができます。ただし、4年生が通年科目又は後期開講科目を選択することはできません。また、出願にあたっては、事前に教務担当教員に相談してください。

3. 授業料等

入学料、授業料、検定料は無料です。ただし、追・再試験の検定料及び授業に係る必要経費については、徴収される場合があります。

4. 開講科目

開講科目及びシラバスは、いわて高等教育コンソーシアムホームページ等を参照してください。

5. 出願方法

いわて高等教育コンソーシアムホームページに掲載されている「単位互換科目履修申告ガイド」及び「単位互換特別聴講学生募集要項」をよく読んで申告してください。

出願書類	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別聴講学生志願書 1通 (いわて高等教育コンソーシアムホームページよりダウンロード) ● 派遣学生願 1通 (本学学生センター窓口にて配布)
出願期間	各学期履修登録期間
書類提出先	本学学生センター

※初回講義に間に合うように手続きを行うこと。

※集中講義科目は適宜期限等を定め募集を行う場合があります。

6. 単位認定

他大学で修得した単位の本学での認定を希望するときは、学生センターで申請手続きを行ってください。

申請方法

提出書類	<ul style="list-style-type: none"> ● 単位認定願 ● 単位修得証明書等（派遣先大学長が発行したもの）
書類提出先	本学学生センター

審査結果

審査結果は、申請の翌月末に「単位認定通知書」により通知されます。

卒業要件単位としての取扱い

認定された単位が、卒業要件単位として算入されるか否かは、所属学部により取扱いが異なりますので注意してください。

所属学部	卒業要件単位への算入
看護学部	認めない。
社会福祉学部	条件付きで認める。 ただし、国家資格関連科目としては認定しない。
ソフトウェア情報学部	条件付きで認める。
総合政策学部	条件付きで認める。

成績表示

他大学で修得した単位は、本学で修得した単位と区別するため、成績表中の評価欄に合（合格）で表示され、「認定」欄に「○」が表示されます。

7. 注意事項

授業の開始時期や時間帯は、開講大学により異なることがあります。

11 短期大学部開講科目の受講(学部)

本学の学生は、「岩手県立大学間単位互換制度」により、盛岡短期大学部及び宮古短期大学部の授業を、申請により履修することができます。修得した単位は、自由聴講科目として本学で修得したものと認定されます。

1. 学生の身分

本学の学生が短大部の授業科目を履修する場合は**派遣学生**、短大部の学生が本学の授業科目を履修する場合は**特別聴講学生**となります。

2. 出願資格

出願時において学部の1年生から4年生に在学している学生が出願することができます。出願にあたっては、事前に教務担当教員に相談してください。

3. 授業料等

入学科、授業料、検定料は無料です。

4. 履修科目及び定員

履修することができる科目及び定員は、各学期の履修登録期間中に配布する「岩手県立大学間特別聴講学生募集要項」で確認してください。また、講義内容の詳細については、大学ホームページのシラバスを参考にして下さい。

定員を超えた応募があった場合は、先着順となります。

5. 出願方法

「岩手県立大学間特別聴講学生募集要項」をよく読んで、手続きを行ってください。

出願書類	● 特別聴講学生志願書 1通 ● 派遣学生願 1通
出願期間	各学期履修登録期間
書類提出先	本学学生センター

6. 受講許可

履修時期	受講許可通知時期
前期	5月下旬
後期	10月下旬

選考結果は、本学学生センターから通知します。ただし、選考により、受講許可されなかった場合には、当該通知以前に受講した事実については無効となります。

7. 単位認定

この単位は自由聴講科目として認定され、卒業要件単位には算入されませんので注意してください。

8. 注意事項

- 科目ごとに定められた定員を超えた場合には、履修できない場合があります。
- 原則として「特別聴講学生志願書」提出後の履修希望科目の変更はできません。確実に履修可能な科目のみを選択してください。

12 語学科目における単位認定(学部)

以下の各種語学能力試験等の成果は、申請により本学における修得単位として認定されます。

◆英語

語学能力試験			本学における授業科目および認定単位数
名称	主催団体	試験の結果	
実用英語技能検定	公益財団法人日本英語検定協会	1級合格	8単位(英語基礎演習Ⅰ～Ⅳ、英語実践演習Ⅰ～Ⅳ)
		準1級合格	4単位(英語基礎演習Ⅰ～Ⅳ)
TOEFL-iBT	Education Testing Service (国際教育交換協議会(CIEE))	76点以上	4単位(英語基礎演習Ⅰ～Ⅳ)
		61～75点	2単位(英語基礎演習Ⅰ・Ⅱ)
TOEIC	Education Testing Service (一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)	700点以上	4単位(英語基礎演習Ⅰ～Ⅳ)
		600～699点	2単位(英語基礎演習Ⅰ・Ⅱ)

(注)TOEFL-PBT等については、換算表により換算して判定します。

◆外国語

区分	語学能力試験			本学における授業科目および認定単位数
	名称	主催者	試験の結果	
中国語	中国語検定試験	一般財団法人日本中国語検定協会	4級合格	4単位(中国語Ⅰ・Ⅱ)
			準4級合格	2単位(中国語Ⅰ)
韓国語	ハングル能力検定試験	NPO法人ハングル能力検定協会	4級合格	4単位以下(韓国語Ⅰ・Ⅱ)
			5級合格	2単位(韓国語Ⅰ)
	韓国語能力試験	財団法人韓国教育財団	2級合格	4単位以下(韓国語Ⅰ・Ⅱ)
			1級合格	2単位(韓国語Ⅰ)
ドイツ語	ゲーテドイツ語検定試験	ドイツ文化センター	B1合格	4単位以下(ドイツ語Ⅰ・Ⅱ)
	ドイツ語技能検定試験	公益財団法人ドイツ語学文学振興会	4級合格	
フランス語	フランス語技能検定試験	公益財団法人フランス語教育振興協会	4級合格	4単位以下(フランス語Ⅰ・Ⅱ)
ロシア語	ロシア語能力検定試験	ロシア語能力検定委員会	4級合格	4単位以下(ロシア語Ⅰ・Ⅱ)
スペイン語	スペイン語検定試験DELE	セルバンテス文化センター	入門以上合格	4単位以下(スペイン語Ⅰ・Ⅱ)

◆本学が実施する海外研修

コース	本学における授業科目および認定単位数
中国語・中国文化コース	中国語Ⅰ～Ⅳのうちいずれか2単位
韓国語・韓国文化コース	韓国語Ⅰ～Ⅳのうちいずれか2単位
スペイン語・スペイン文化コース	スペイン語Ⅰ～Ⅳのうちいずれか2単位

申請方法

学期	申請期限	提出書類	提出場所
前期	8月末日	● 単位認定申請書 1通 ● 各試験結果通知書(海外研修の場合には研修修了証)の写し 1通	学生センター
後期	1月末日		

成績表示

語学における修得単位認定に係る成績は、成績表中の評価欄に合(合格)で表示され、「認定」欄に「○」が表示されます。

単位認定結果

単位が認定された場合は、申請月の翌月末に「単位認定通知書」により通知します。

13 学部等授業科目の聴講(大学院)

本学大学院では学生の教育研究活動の一助とするために、当該大学院の基礎となる4年制学部で開講している授業科目の聴講を認めています。

1. 聴講手続き

4年制学部授業科目の聴講を希望する学生は、**本人が個別に聴講したい授業科目の担当教員及び研究科の指導担当教員の了解を得ることにより**、研究科の基礎となる学部授業科目を聴講することができます。聴講科目数の上限はなく、書面提出は不要です。

この手続は、原則として履修登録期間内に行うこととしますが、特段の事情がある場合には、随時各教員に相談してください。

2. 聴講科目

聴講科目は所属大学院の基礎となる学部の専門科目とし、博士後期課程の学生にあつては、基礎となる学部の授業科目のほか、当該研究科博士前期課程の授業科目を聴講できるものとします。

なお、基礎となる学部以外の学部又は、他研究科の授業科目の聴講を希望する場合には、本学の「**聴講生**」として聴講する方法があります。

この場合、所定の時期に「聴講生」の願書出願等の手続きが必要となります。

3. 単位認定

聴講した授業科目の単位は認定されません。単位認定を必要とする場合には、履修登録期間内に「**学部授業科目履修申請書**」を提出し、研究科委員会及び教授会の承認を得る手続きが必要となります。

《参考》

研究科	課程	聴講できる科目	聴講手続	単位の認定
看護学研究科	博士前期課程	・看護学部の専門科目	左記授業科目のうち、授業担当教員及び指導担当教員の了解が得られたものについて聴講を認める。	聴講扱いとし、単位の認定は行わない。 単位認定を必要とする場合は、「学部授業科目履修申請書」を提出し、研究科委員会及び教授会の承認を得る手続きが必要となる。
	博士後期課程	・看護学部の専門科目 ・看護学研究科博士前期課程の開講科目		
社会福祉学研究科	博士前期課程	・社会福祉学部の専門科目		
	博士後期課程	・社会福祉学部の専門科目 ・社会福祉学研究科博士前期課程の開講科目		
ソフトウェア情報学研究科	博士前期課程	・ソフトウェア情報学部の専門科目		
	博士後期課程	・ソフトウェア情報学部の専門科目 ・ソフトウェア情報学研究科博士前期課程の開講科目		
総合政策研究科	博士前期課程	・総合政策学部の専門科目		
	博士後期課程	・総合政策学部の専門科目 ・総合政策研究科博士前期課程の開講科目		

14 長期履修学生制度(大学院)

長期履修学生制度とは、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限(博士前期課程2年、博士後期課程3年)を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する場合に、その計画的な履修を認める制度です。

1. 対象者

岩手県立大学大学院(看護学研究科、社会福祉学研究科、ソフトウェア情報学研究科、総合政策研究科)に在学していて、職業を有している者又は長期履修が必要となる相当の理由を有する者を対象とします。

- 「職業を有している者」とは、正規に雇用されている者に限りませんが、主として当該収入により生計を維持していることを要件とします。
- 「長期履修が必要となる相当の理由」とは、育児、介護への従事等により、著しく学習又は研究時間の制約を受けることを要件とします。

2. 長期履修期間

在学年限(博士前期課程4年、博士後期課程6年)の範囲内で、1年単位で長期履修期間を定めることができます。

- 休学期間は上記期間に含まれません。
- 長期履修の適用の有無にかかわらず、在学年限内に修了することができない場合には、除籍の対象となります。

3. 授業料

標準修業年限分の授業料に相当する額を、長期履修期間に応じて分割納付していただきます。

$$\text{長期履修による授業料年額} = \text{通常の授業料年額} \times \text{標準修業年限} \div \text{長期履修許可年限}$$

【例】博士前期課程で3年間の長期履修許可を受けた場合

区分	各年度の授業料納付額			修了までの授業料総額
一般学生	1年目 535,800円	2年目 535,800円		1,071,600円
長期履修学生	1年目 357,200円	2年目 357,200円	3年目 357,200円	

(注) 上記は平成29年度の授業料年額による例であり、在学中に授業料が改定された場合には改定後の額で再計算されます。

- 長期履修学生については授業料の免除、分割納付及び納期変更制度は適用されません。
- 長期履修期間を終了してもなお修了できずに在学する場合の授業料の額は、通常の授業料の額と同額となります。

4. 申請方法

長期履修の申請の時期は、毎年度2月とします。ただし、在学生のうち最終年次(博士前期課程2年目、博士後期課程3年目)に在学する者は申請することができません。

申請に当たっては、あらかじめ指導担当教員に相談し、承諾を得たうえで下記の書類を学生センターに提出してください。申請後、研究科による審査を経て、学長が許可の可否を決定します。

長期履修制度に関する情報は、Web 学生便覧「大学院長期履修制度」に掲載されますので、申請を希望する学生は必ず確認してください。

- 長期履修申請書(「長期履修学生規程」様式第1号)
- 長期履修計画書(様式任意)
- 長期履修が必要となることを証明する書類(在職証明書等)

5. 長期履修期間の変更

長期履修期間中に、就業環境の変化等により必要が生じた場合は、1回に限り長期履修期間の延長を申請することができます。

また、長期履修期間途中で、修了できる見込みが明らかとなった場合は、必ず申し出てください。

6. その他

- 長期履修期間中の学期毎の修得単位数の上限が設けられることがあります。
- 奨学金については、長期履修学生制度による特段の措置はありませんが、貸与期間満了時に所定の手続を行うことにより、その後の在学期間中は返還が猶予されます。
- 長期履修学生制度は、単位の修得状況や学位論文の審査過程により修了が延期となる者を救済する制度ではありません。また、療養、出産、海外留学等により一定の期間にわたり履修することができない場合には、長期履修学生制度ではなく、休学許可の対象となります。

ソフトウェア情報学部

学士課程教育に係る全学 DP・CP

■ 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

岩手県立大学の学士課程教育では、建学の理念及び大学の基本的方向を踏まえ、次に掲げる能力を備えた人材を育成するものとし、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学し且つ単位を修得した学生に対し、学士の学位(看護学、社会福祉学、ソフトウェア情報学、総合政策学)を授与します。

1. 豊かな人間性を育む社会の形成に貢献する、幅広い教養と高度な専門的知識を身に付けている。
(知識・理解)
2. 自然や社会の諸課題を幅広い視点から捉え、専門的知識を生かして実践的に課題を解決することができる。(思考・判断)
3. グローバル化する社会の中で、互いの文化と個々の人格を尊重し、相互理解を図ることができる。
(技能・表現)
4. 専門的知識を地域社会の発展に活かすため、広範な分野の人と協働し、主体的かつ意欲的に活動することができる。(興味・関心・態度)

■ 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

岩手県立大学の学士課程教育では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力の育成のため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

1. 基盤教育科目及び専門教育科目を体系的に配置し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。
2. 基盤教育科目は全学共通の教育課程とし、次の科目群を設置し全学的な体制のもとに専門教育と並行して実施します。
 - ① 本学での学習活動や社会生活において不可欠な知識・技能を育成する科目群
 - ② 幅広く豊かな教養に基づく総合的な判断力を育成する科目群
3. 専門教育科目は、基盤教育科目との連携性を考慮しながら、各学部において編成・実施します。

I ソフトウェア情報学部の概要

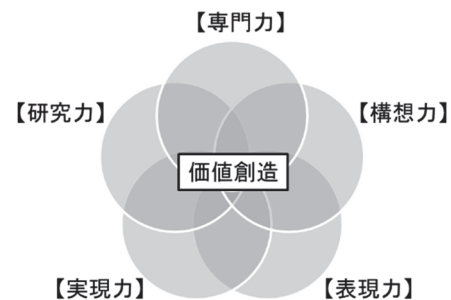
ソフトウェア情報学部の概要

● 人材育成理念

社会構造の変化に伴い多様化・複雑化する問題の解決につながる情報技術・システムが求められています。本学部では、実学・実践の教育・研究を通して「人に優しい情報化社会」の実現に寄与できる人材の育成を理念とします。そのために、真に利用者の立場から情報技術・システムを企画・設計・開発・保守・運用できる、深い知性と豊かな人間性、世界に通用する独創性を備えた人材を育成します。

● 目指す人材像「二つの価値と五つの力」

1. 情報技術をコアコンピタンスとして、他者と連携しつつ、社会的な価値を意欲的に創造できる
 2. 社会における自分の価値を説得的に説明でき、継続的に高めながら、自らの将来を切り開いていく
- 【専門力】 広い視野と深い専門性をもとに自信をもって社会と関わっていける力
 - 【研究力】 ものごとを客観的・科学的にとらえ、論述や評価を通して、自分たちの主張に根拠を与える力
 - 【構想力】 他者と一緒に社会における問題を発見・分析・解決していける力
 - 【実現力】 自分の行動を工夫しながら、周囲と高めあいながら、学びを継続し、社会の変化に対応していく力
 - 【表現力】 他者・社会に自分たちの主張や提案を分かりやすく示し、受け入れてもらう力



1. ディプロマ・ポリシー(DP)、カリキュラム・ポリシー(CP)

■ 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

● 卒業要件

ソフトウェア情報学部では、本学の建学の理念、教育の特色、教育研究上の目的を踏まえ、実学・実践の教育・研究を通して「人に優しい情報化社会」の実現に寄与できる人材の育成を理念とし、真に利用者の立場から情報技術・システムを企画・設計・開発・保守・運用できる、深い知性と豊かな人間性、世界に通用する独創性を備えた人材の育成を図ります。

そして、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学し且つ単位を修得した学生を、次に掲げる『学生が卒業までに身につけるべき能力』を備えたものとして、学位『学士(ソフトウェア情報学)』を授与します。

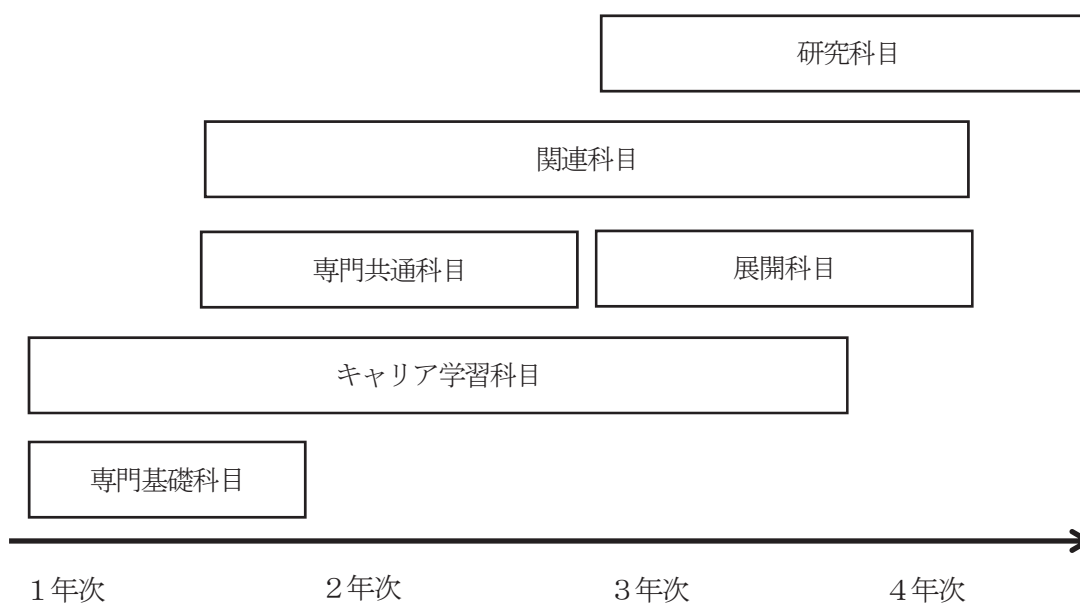
● 卒業時に身につけておくべき能力

- 1 情報技術の分野に興味を持ち、人間や社会に及ぼす影響や効果を理解でき、技術者が負っている責任を感じることができる。
- 2 利用者の立場から情報技術・システムへの要求を考え、問題を解決する方法を提案することができる。さらに、情報技術の新しい活用法を創造することができる。
- 3 技術者の立場から情報技術・システムに関する幅広い知識とスキルを修得し、それを活用した仕組みを企画・設計・開発・保守・運用することができる。
- 4 自分の能力・適性を把握し、自主的・計画的・継続的に学習・研究を進めることができる。
- 5 論理的な文章を書き、自らの見解を分かりやすく伝達し、他者の意見を踏まえて議論することができる。

■ 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

ソフトウェア情報学部では、利用者の立場の分かる技術者を育成するため、専門教育と人間教育を一体化した内容を特長とし、学年ごとの目標を設定し一貫して学べるカリキュラムを編成しています。カリキュラムでは、ソフトウェア情報学の知識とスキルを身につけるための多彩な専門科目を体系的に学ぶため、専門基礎科目、専門共通科目、関連科目、展開科目、キャリア学習科目、研究科目により構成し、次のような方針で科目を階層的に編成しています。

- CP1. 専門基礎科目の中に、専門への導入を円滑にするための科目を配置し、初年次教育の充実を図ります
- CP2. 専門共通科目に、ソフトウェア情報学における幅広い専門知識を身につけるためソフトウェア・ハードウェアに関する基礎科目を置きます
- CP3. 関連科目の中に、人間や社会と情報技術を結びつけるための科目を配置します
- CP4. 展開科目に、実践的なスキルを向上させるための多様な科目を配置します
- CP5. キャリア学習科目の中に、自己を磨き自らの進む進路を見つける科目、チームで問題発見・解決する能力を養うための科目を配置します
- CP6. 研究科目では、実践力養成のために少人数ゼミによる教育を重視します



科目群体系図

2. 教育課程の内容

本学部で行う教育は、コンピュータサイエンスを基本とし、基盤システムに関するソフトウェアから現実の社会等への応用を主眼とした応用システムに関するソフトウェアまでを対象としています。

本学部の専門科目は、学部共通の「専門共通科目」を基礎として、それぞれの専門領域に応じて「展開科目」の中から必要な科目を選択履修することにより、専門的な知識を身につけることができる内容になっています。

さらに、専門領域外の科目で構成する「関連科目」の中から必要な科目を履修することにより、専門的な理解をより深めるとともに、その効果的な活用を図るための知識を修得することができます。

また、「キャリア学習科目」では、価値創造や学びという概念を修得し、「研究科目」において総合的な専門知識の活用を推進することで、社会における実践力を養います。

3. 教育課程の特色

● 人間性を培う教養教育

それぞれの専門知識の修得はもとより、豊かな教養の修得と人間尊重の精神を涵養するため、人間性を培う特色ある教養教育を積極的に推進しています。その一環として、1年次からの研究室配属を実施しており、より深い教育と教員・学生間の交流を実現しています。さらに、3年次前期までは、研究室の変更ができるなどの柔軟な取り扱いとしているために、様々な専門分野の研究室で指導を受けることができます。また、やる気や興味に応じた柔軟な履修形態が可能です。

● 四学部の連携を考慮した教育研究活動

四つの学部で構成されていることの特徴を活かし、学際的領域を重視した特色ある教育・研究をおこなうために、学部間連携による共同研究など学際的、総合的な教育研究活動を推進しています。

● 地域に根ざした実学・実践的教育研究活動

地域社会における実践的対応能力を身につけるために、演習を重視するなど実学的教育を多く取り入れています。さらに、地域に根ざした課題に対する実学・実践的教育研究活動を推進しています。

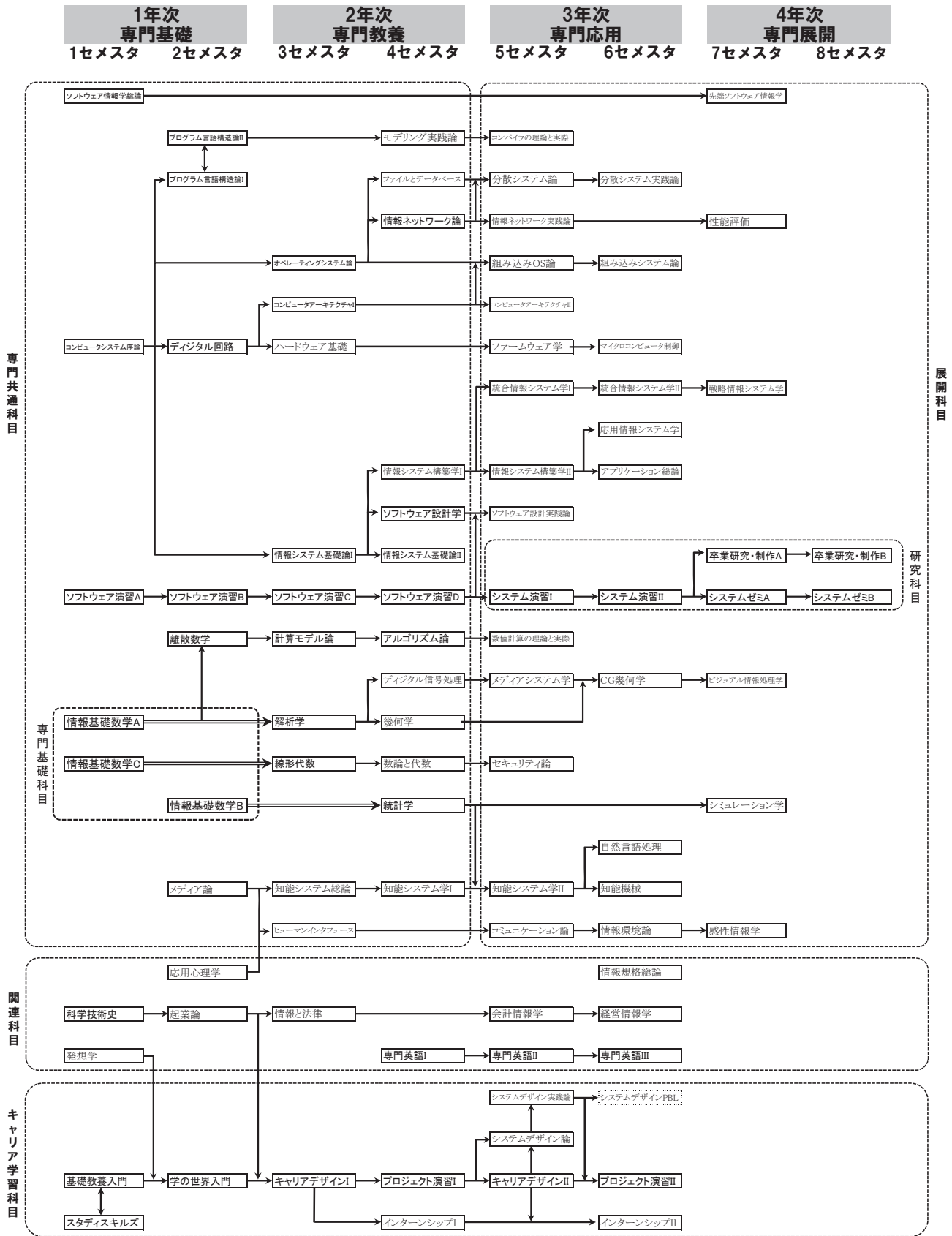
● 地域に開かれた大学としての教育研究活動

地域住民の多様な学習ニーズに応じていくために、社会人の受け入れ、施設の開放、公開講座などを積極的に推進しています。また、地域産業の発展に寄与するために、産業界との人的交流、受託研究、共同研究などを通じて、多様かつ柔軟な研究活動を推進しています。さらに、他大学との関係においても、大学間の交流を密にし、教員・学生の交流、単位互換などを推進しています。

● 国際的な教育研究活動

外国人留学生の受け入れなど多様な国際交流を積極的に推進しています。また、教員の海外派遣など、教育・研究における交流を推進しています。この視点から、英語をはじめ7ヶ国語という充実した外国語科目が用意されています。地域に根ざした実学・実践を基本的立場とし、現実にソフトウェアの設計・開発・管理を行いうる人材を育成するため、演習を重視するなど実学的教育を多く取り入れています。

4. カリキュラム体系図



→ 特に関連する科目
 ⇒ 先修条件科目(単位を取得しないと上位科目を履修できません)

ゴシック体の科目名: 必修科目
 明朝体の科目名: 選択科目
 点線枠の科目名: 自由聴講科目(システムデザインPBL)

5. 先修条件

学部開講科目のうち、下記に示す科目は、対応する先修条件科目の単位を修得していなければ履修することができません。

科目名	先修条件科目名
解析学	情報基礎数学 A
統計学	情報基礎数学 B
線形代数	情報基礎数学 C

6. 先行履修制度

学部開講科目のうち、情報基礎数学 A～C は、数学プレイスメント・テストに合格することにより単位が認定されます。

テストに合格した場合、合格した科目と同一学期に開講される上位の科目を先行して履修します。

合格科目名	先行履修科目名
情報基礎数学 A	解析学
情報基礎数学 B	統計学
情報基礎数学 C	線形代数

7. 履修登録の上限

本学部において、1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は 24 単位です。ただし、以下の科目は登録できる単位数に含まれません。

- 自由聴講科目(教職科目等)
- プレイスメント・テストの合格により、情報基礎数学 A～C が単位認定された場合における同一学期の先行履修科目(解析学、統計学、線形代数;入学年次のみ)
- いわて創造学習 I・II

8. 履修登録上限の緩和

《成績優秀者》

2 年次以降、前年度終了時点において通算 GPA が 3.0 以上の場合は、半期あたり 4 単位を追加で履修できます。

《編入学生》

編入学生の上限は 28 単位です。

9. 進級要件

《2年次への進級》

1年次終了時点において卒業要件単位から 20 単位以上 を修得していること。

《3年次への進級》

2年次終了時点において卒業要件単位から 1/2 以上 (66 単位以上) を修得していること。

《4年次への進級》

所属講座のシステム演習 I、II の単位を修得していること、および、3年次終了時点において卒業要件単位から 3/4 以上 (99 単位以上) を修得していること。

※ 教務委員会 WEB で配布しているガイダンス資料も熟読してください

<http://www.soft.iwate-pu.ac.jp/~kyomu>

10. 卒業要件

本学部を卒業するためには、4年以上在学し、最低限、次の表に示す所定の単位を修得しなければなりません。

区 分		配 当 単位数	卒業要件単位数			
			必 修	選 択	計	
基盤教育科目	基礎科目	英語	10	8	—	8
		情報処理	2	2	—	2
		入門演習	2	2	—	2
		地域学習	4	2	—	2
	教養科目	領域科目	42			
		テーマ科目	46		12	12
		プロジェクト科目	18			
	保健体育	3		1	1	
	外国語	外国語	28		4	4
		外国語自由聴講科目	28			
計	183	14	17	31		
専門科目	専門基礎科目	3	3		3	
	キャリア学習科目	14	6			
	専門共通科目	60	38	30	82	
	展開科目	60	—			
	関連科目	22	8			
	研究科目	40	8	8	16	
教職関連科目	32					
計	231	63	38	101		
		414	77	55	132	

注1) 教養科目は、領域科目4単位、テーマ科目4単位を含めて計12単位以上

注2) 外国語は、同一外国語に係る I 及び II をセットで4単位以上

注3) 研究科目は、所属講座の開講科目を履修する

注4) 単位互換により他大学で修得した単位は、教養科目で4単位以内、関連科目で4単位以内を 本学で修得した単位として事前審査を経て認定する場合がある。

11. アドバイス体制

学生の計画的かつ自発的な学習を促すとともに、学生個々の適性に合った指導を行うため、各講座へ1年生から少人数の配属を行っています。困ったことがあったら、まず講座の同級生・上級生に相談しましょう。それでも解決できないときは教員に相談しましょう。個々の講座で学生の教育面や生活面の指導・支援を行うことにより、入学から卒業まできめ細かな指導を行えるようにしています。

また、講座とは別に、学習支援を行う場として、学習支援コーナーがあります(ソフトウェア情報学部 A 棟 2 階 204 講義室の対面の部屋)。教員および上級生によるフォローが受けられますので、基礎学力に不安のある学生は、早めの相談をおすすめします。

より専門的な指導・支援は、以下のような各委員会が窓口となり、ホームページによる情報提供を行ったり、メールによる質問を受け付けたりしています。

◆カリキュラム・履修に関する情報・質問先

教務委員会 WEB <http://www.soft.iwate-pu.ac.jp/~kyomu/>
教務委員会メールアドレス soft-kyomu@ml.iwate-pu.ac.jp

◆就職に関する情報・質問先

就職委員会 WEB <http://www.soft.iwate-pu.ac.jp/~soft.job/IPU/>
就職委員会メールアドレス soft.job@ml.iwate-pu.ac.jp

12. 履修モデル

卒業後の進路としては、全履修モデルに共通して、民間就職、大学院進学、公務員、高等学校の教員(情報)などが挙げられます。就職先は、通信・情報・ソフトウェア業界を中心に、銀行業界、印刷業界、新聞業界、エンターテインメント業界など多岐にわたります。

本学部のカリキュラムは、日本技術者教育認定機構JABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education) のコンピュータサイエンスと情報システムという2分野で認定を受けた(2003～2007 年度)内容を基盤とし、さらに拡充して構築しています。基盤・メディア・知能システムの3履修モデルは、コンピュータサイエンス分野に、情報システムの履修モデルは、情報システム分野に対応しています。自分の将来の技術者像をイメージしながら学生生活を送ってください。

《基盤システムモデル》

基盤システムモデルでは、メーカー等のソフトウェア開発部門、基本ソフトウェア開発部門、基幹ソフトウェア開発部門やシステムエンジニア等を就職先として想定し、OS、分散システム、ネットワークシステムやデータベースシステムなどの基盤となるソフトウェアに関する科目を中心に構成しており、組み込みソフトウェア系と分散ソフトウェア系の2履修モデルを設定しています。なお、モデリング実践論、コンパイラの理論と実際、分散システム論、分散システム実践論は、本モデルのコア科目です。

組み込みソフトウェア系

組み込みソフトウェアの設計はハードウェアに密接に関連しており、ハードウェアに関する基礎的な知識も必要であることから、選択科目のうち、ファイルとデータベース、コンピュータアーキテクチャⅡ、マイクロコンピュータ制御、ファームウェア学等を履修します。

分散ソフトウェア系

分散環境の構築には、システムの信頼性や性能に関する知識が必要であることから、選択科目のうち、数値計算の理論と実際、ファイルとデータベース、性能評価、セキュリティ論、シミュレーション学等を履修します。

《メディアシステムモデル》

メディアシステムモデルでは、画像・映像情報産業(CGを含む)、マルチメディアコンテンツ産業、エンターテインメント業界等のデジタル処理技術のエンジニア等を就職先として想定し、コミュニケーションメディアの構築、応用に関する科目を中心に構成しており、メディア開発系とメディア応用系の2履修モデルを設定しています。なお、デジタル信号処理、メディアシステム学、CG幾何学、ビジュアル情報処理学は、本モデルのコア科目です。

メディア開発系

コミュニケーションメディアの開発には、人間の知能、コミュニケーション、感性に対する基本的な理解が必要であることから、選択科目のうち、コミュニケーション論、感性情報学等を履修します。

メディア応用系

コミュニケーションメディアの応用には、人間と情報の関わり方や既に存在するアプリケーションとの融合に対する理解が必要であることから、選択科目のうち、知能システム学、情報環境論、アプリケーション総論などを履修します。

《知能システムモデル》

知能システムモデルでは、情報サービス産業、マルチエンジニア、エキスパートシステム製作者、ナレッジエンジニア、AI関連システム開発部門、バーチャルリアリティ関連部門等を就職先として想定し、人工知能やロボットなど知識処理に関する科目を中心に構成しており、知識処理系と知能制御系の2履修モデルを設定しています。なお、知能システム学I、II、知能機械、自然言語処理は、本モデルのコア科目です。

知能処理系

知能処理には、知識を利用したメディア設計や感性情報処理に基づく知的情報処理に関する知識が必要であることから、選択科目のうち、デジタル信号処理、メディアシステム学、コミュニケーション論、感性情報学等を履修します。

知能制御系

知能制御には、知的操作を可能とする制御要素技術が必要であることから、選択科目のうち、コンピュータアーキテクチャII、マイクロコンピュータ制御、ファームウェア学等を履修します。

《情報システムモデル》

情報システムモデルでは、企業の情報部門、製品開発部門、流通・金融業界の情報システム部門、自治体の情報企画部門等を就職先として想定し、システム設計、開発、管理等に関する科目を中心に構成しており、システム開発系とシステム応用系の2履修モデルを設定しています。なお、情報システム構築学I、II、統合情報システム学I、IIは、本モデルのコア科目です。

システム開発系

情報システムの開発には、情報システムの開発能力に加え、その評価に関する理解が必要であることから、選択科目のうち、ファイルとデータベース、性能評価、セキュリティ論、シミュレーション学等を履修します。

システム応用系

情報システムの応用には、社会的に広く適用できる応用能力が必要であることから、選択科目のうち、ファイルとデータベース、戦略情報システム学、応用情報システム学、アプリケーション総論を履修します。

基盤システムモデル(組み込みソフトウェア系) ★は必修科目					
	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期
専門基礎	★情報基礎数学A ★情報基礎数学C	★情報基礎数学B	★ソフトウェア演習D ★アルゴリズムA論 ★統計学 数論と代数	★キャリアデザインII ★ソフトウェアデザインII	4年次後期
キャリア学習 (12年次)	★スタディスキルズ ★ソフトウェア演習A	★ソフトウェア演習B ★離散数学	★ソフトウェア演習C ★計算モデル論 ★解析学 ★線形代数 ★コンピュータークータキチャリ	★プロジェクト演習II	4年次前期
履 修 (34年次)	★コンピュータシステム骨髄 ★ソフトウェア情報学総論	★デジタル回路 ★プログラム言語構造論I ★プログラム言語構造論II	★ソフトウェア設計学 ★情報ネットワーク論 ★情報システム基礎論II ★ハードウェア基礎 ★オペレーティングシステム論	★プロジェクト演習II ★ソフトウェアデザインII ★キャリアデザインII	3年次後期
関 連	★科学技術史 ★物理学		★専門英語I	★プロジェクト演習II ★ソフトウェアデザインII	3年次前期
研 究			★専門英語II	★プロジェクト演習II ★ソフトウェアデザインII	3年次後期
志望教育	★英語基礎演習I・実践演習I ★情報リテラシー ★基礎教養入門 ★基礎教養科目×2 ★いわて創発入門	★英語基礎演習II・実践演習II ★学の世界入門 ★教養科目×4 ★健康科学	★英語基礎演習III・実践演習III ★英語基礎演習IV・実践演習IV	★プロジェクト演習II ★ソフトウェアデザインII	4年次後期
専 門	必修11 選択2 必修7 選択4	必修10 必修3 選択10	必修14 選択2 必修2 選択2	必修5 選択16 必修3 選択8	必修4 選択2 必修4 選択2
志望教育					
合 計	24単位	23単位	24単位	19単位	6単位
					133単位

基盤システムモデル(分散ソフトウェア系) ★は必修科目					
	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期
専門基礎	★情報基礎数学A ★情報基礎数学C	★情報基礎数学B	★ソフトウェア演習D ★アルゴリズムA論 ★統計学 数論と代数	★キャリアデザインII ★ソフトウェアデザインII	4年次後期
キャリア学習 (12年次)	★スタディスキルズ ★ソフトウェア演習A	★ソフトウェア演習B ★離散数学	★ソフトウェア演習C ★計算モデル論 ★解析学 ★線形代数 ★コンピュータークータキチャリ	★プロジェクト演習II	4年次前期
履 修 (34年次)	★コンピュータシステム骨髄 ★ソフトウェア情報学総論	★デジタル回路 ★プログラム言語構造論I ★プログラム言語構造論II	★ソフトウェア設計学 ★情報ネットワーク論 ★情報システム基礎論II ★ハードウェア基礎 ★オペレーティングシステム論	★プロジェクト演習II ★ソフトウェアデザインII	3年次後期
関 連	★科学技術史 ★物理学		★専門英語I	★プロジェクト演習II ★ソフトウェアデザインII	3年次前期
研 究			★専門英語II	★プロジェクト演習II ★ソフトウェアデザインII	3年次後期
志望教育	★英語基礎演習I・実践演習I ★情報リテラシー ★基礎教養入門 ★基礎教養科目×2 ★いわて創発入門	★英語基礎演習II・実践演習II ★学の世界入門 ★教養科目×4 ★健康科学	★英語基礎演習III・実践演習III ★英語基礎演習IV・実践演習IV	★プロジェクト演習II ★ソフトウェアデザインII	4年次後期
専 門	必修11 選択2 必修7 選択4	必修10 必修3 選択10	必修14 選択2 必修2 選択2	必修5 選択16 必修3 選択8	必修4 選択2 必修4 選択2
志望教育					
合 計	24単位	23単位	24単位	19単位	6単位
					133単位

メディアシステムモデル(メディア開発系) ★は必修科目						
	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期
専門基礎	★情報基礎数字A ★情報基礎数字B ★情報基礎数字C	★情報基礎数字B				
キャリア学習	★スタディスキルズ ★ソフトウェア演習A	★ソフトウェア演習B ★離散数学	★キャリアデザイン ★ソフトウェア演習C ★計算モデル論 ★解析学 ★線形代数 ★オペレーティングシステム論	★ソフトウェア演習D ★アルゴリズム論 ★統計学	★キャリアデザインII	★ソフトウェア演習II
専門共通 (1,2年次)		★コンピュータシステム序論 ★ソフトウェア情報学総論	★コンピュータアーキテクチャ ★デジタル回路 ★プログラム言語構造論I ★プログラム言語構造論II メディア論	★ソフトウェア設計学 ★情報ネットワーク論 ★情報システム基礎論II ファイルとデータベース デジタル番号処理	ソフトウェア設計実論 情報ネットワーク実論 コミュニケーション論 メディアシステム学	情報環境論 CG幾何学 感性情報学 ビジネス情報学
展開 (3,4年次)					★専門英語II メディアシステム演習I	★専門英語III 情報規格総論 メディアシステム演習II
関連	★科学技術史 発想学		情報と法律	★専門英語I		メディアシステムゼミA ★卒業研究・制作A
研究					メディアシステム演習I	メディアシステムゼミB ★卒業研究・制作B
基礎教育	★英語基礎演習I・実践演習I ★情報リテラシー ★基礎教養入門 教養科目×2 ★いわて創道入門	★英語基礎演習II・実践演習II ★学の世界入門 教養科目×3 健康科学	★英語基礎演習III・実践演習III 教養科目×1 第二外国語II 必修14 選択4 必修1 選択2 必修3 選択6	★英語基礎演習IV・実践演習IV 必修14 選択4 必修2 選択2	必修9 選択10 必修5 選択8 必修4 選択6	必修4 選択2 必修4 選択2
専門	必修7 選択4	必修10 選択4 必修3 選択6	必修4 選択4 必修3 選択4	必修14 選択4 必修2 選択2	必修5 選択8 必修9 選択10	必修4 選択2
基礎教育						
合計	24単位	23単位	24単位	22単位	13単位	10単位
						6単位
						11単位
						133単位

メディアシステムモデル(メディア応用系) ★は必修科目						
	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期
専門基礎	★情報基礎数字A ★情報基礎数字B ★情報基礎数字C	★情報基礎数字B				
キャリア学習	★スタディスキルズ ★ソフトウェア演習A	★ソフトウェア演習B ★離散数学	★キャリアデザイン ★ソフトウェア演習C ★計算モデル論 ★解析学 ★線形代数 ★オペレーティングシステム論	★ソフトウェア演習D ★アルゴリズム論 ★統計学	★キャリアデザインII	★ソフトウェア演習II
専門共通 (1,2年次)		★コンピュータシステム序論 ★ソフトウェア情報学総論	★コンピュータアーキテクチャ ★デジタル回路 ★プログラム言語構造論I ★プログラム言語構造論II メディア論	★ソフトウェア設計学 ★情報ネットワーク論 ★情報システム基礎論II デジタル番号処理 知能システム学I	ソフトウェア設計実論 コミュニケーション論 メディアシステム学 知能システム学II	アプリケーション総論 情報環境論 CG幾何学 ビジネス情報学
展開 (3,4年次)					★専門英語II	★専門英語III メディアシステム演習II
関連	★科学技術史 発想学	応用心理学	情報と法律	★専門英語I		メディアシステムゼミA ★卒業研究・制作A
研究					メディアシステム演習I	メディアシステムゼミB ★卒業研究・制作B
基礎教育	★英語基礎演習I・実践演習I ★情報リテラシー ★基礎教養入門 教養科目×2 ★いわて創道入門	★英語基礎演習II・実践演習II ★学の世界入門 教養科目×2 健康科学	★英語基礎演習III・実践演習III 教養科目×1 第二外国語II 必修11 選択4 必修10 選択2 必修7 選択4	★英語基礎演習IV・実践演習IV 教養科目×1 第二外国語II 必修14 選択4 必修2 選択2	必修9 選択10 必修5 選択8 必修4 選択6	必修4 選択2 必修4 選択2
専門	必修7 選択4	必修3 選択6 必修10 選択4 必修3 選択6	必修4 選択4 必修3 選択4	必修14 選択4 必修2 選択2	必修5 選択8 必修9 選択10	必修4 選択2
基礎教育						
合計	24単位	23単位	24単位	24単位	13単位	8単位
						6単位
						11単位
						133単位

知能システムモデル(知能処理系) ★は必修科目

	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
専門基礎	★情報基礎数学A ★情報基礎数学B	★情報基礎数学B	★キャリアデザイン ★ソフトウェア演習G ★計算モデル論 ★解析学 ★線形代数 ★オペレーティングシステム論	★キャリアデザイン ★ソフトウェア演習D ★アルゴリズム論 ★統計学	★キャリアデザインII ★ソフトウェア設計実習論	★キャリアデザインII ソフトウェア設計実習論 コミュニケーション論 知能システム学II メタシステム学 ★専門英語II	感性情報学	
キャリア学習 専門共通 (12年次)	★スタディスキルズ ★ソフトウェア演習A	★ソフトウェア演習B ★離散数学	★コンピュータ回路 ★ソフトウェア言語構造論I ★プログラム言語構造論II	★ソフトウェア演習E ★情報システム基礎論II 知能システム学I デジタル符号処理 ★専門英語	知能システム演習II	知能システム演習II	知能システムゼミA ★卒業研究・制作A	知能システムゼミB ★卒業研究・制作B
展開 (34年次)	★コンピュータシステム序論 ★ソフトウェア情報学総論	★コンピュータ回路 ★ソフトウェア言語構造論I ★プログラム言語構造論II	★情報システム基礎論 ハードウェア基礎 知能システム総論	★ソフトウェア設計学 ★情報ネットワーク論 ★情報システム学I 知能システム学II	知能システム演習III	知能システム演習III	知能システムゼミA ★卒業研究・制作A	知能システムゼミB ★卒業研究・制作B
関連	★科学技術史 ★数学	応用心理学	情報と法律	★専門英語	知能システム演習II	知能システム演習II	知能システムゼミA ★卒業研究・制作A	知能システムゼミB ★卒業研究・制作B
研究								
基礎教育	★英語基礎演習I・実習演習I ★情報リテラシー ★基礎教養入門 教養科目×2 ★いわて創造入門	★英語基礎演習II・実習演習II ★学の世界入門 教養科目×3 健康科学 必修11選択2 必修10選択2 必修7選択2 必修3選択2	★英語基礎演習III・実習演習III ★英語基礎演習IV・実習演習IV 教養科目×1 第二外国語I 第二外国語II 必修14選択1 必修14選択2 必修2選択2 必修3選択2	★英語基礎演習IV・実習演習IV 教養科目×1 第二外国語I 第二外国語II 必修14選択1 必修14選択2 必修2選択2 必修3選択2	必修3選択10 必修3選択8 必修4選択4 必修4選択2	必修3選択10 必修3選択8 必修4選択4 必修4選択2	必修4選択4 必修4選択2	必修4選択2
専門	必修7選択2 必修3選択2	必修10選択2 必修7選択2 必修3選択2	必修14選択2 必修14選択2 必修2選択2 必修3選択2	必修14選択2 必修14選択2 必修2選択2 必修3選択2	必修3選択10 必修3選択8 必修4選択4 必修4選択2	必修3選択10 必修3選択8 必修4選択4 必修4選択2	必修4選択4 必修4選択2	必修4選択2
基礎教育	必修7選択2 必修3選択2	必修10選択2 必修7選択2 必修3選択2	必修14選択2 必修14選択2 必修2選択2 必修3選択2	必修14選択2 必修14選択2 必修2選択2 必修3選択2	必修3選択10 必修3選択8 必修4選択4 必修4選択2	必修3選択10 必修3選択8 必修4選択4 必修4選択2	必修4選択4 必修4選択2	必修4選択2
合計	24単位	23単位	24単位	24単位	13単位	11単位	8単位	6単位
								133単位

知能システムモデル(知能制御系) ★は必修科目

	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
専門基礎	★情報基礎数学A ★情報基礎数学B	★情報基礎数学B	★キャリアデザイン ★ソフトウェア演習G ★計算モデル論 ★解析学 ★線形代数 ★オペレーティングシステム論	★キャリアデザイン ★ソフトウェア演習D ★アルゴリズム論 ★統計学	★キャリアデザインII ★ソフトウェア設計実習論	★キャリアデザインII コンピュータアーキテクチャII 組込みOS論 ソフトウェア設計実習論	★キャリアデザインII 組込みシステム論 マイクロコンピュータ制御 知能機械 自然言語処理 ★専門英語II	
キャリア学習 専門共通 (12年次)	★スタディスキルズ ★ソフトウェア演習A	★ソフトウェア演習B ★離散数学	★コンピュータ回路 ★ソフトウェア言語構造論I ★プログラム言語構造論II	★ソフトウェア演習E ★情報システム基礎論II 知能システム学I 知能システム学II	知能システム演習II	知能システム演習II	知能システムゼミA ★卒業研究・制作A	知能システムゼミB ★卒業研究・制作B
展開 (34年次)	★コンピュータシステム序論 ★ソフトウェア情報学総論	★コンピュータ回路 ★ソフトウェア言語構造論I ★プログラム言語構造論II	★情報システム基礎論 ハードウェア基礎 知能システム総論	★ソフトウェア設計学 ★情報ネットワーク論 ★情報システム学I 知能システム学II	知能システム演習III	知能システム演習III	知能システムゼミA ★卒業研究・制作A	知能システムゼミB ★卒業研究・制作B
関連	★科学技術史 ★数学	応用心理学	情報と法律	★専門英語	知能システム演習II	知能システム演習II	知能システムゼミA ★卒業研究・制作A	知能システムゼミB ★卒業研究・制作B
研究								
基礎教育	★英語基礎演習I・実習演習I ★情報リテラシー ★基礎教養入門 教養科目×2 ★いわて創造入門	★英語基礎演習II・実習演習II ★学の世界入門 教養科目×3 健康科学 必修11選択2 必修10選択2 必修7選択2 必修3選択2	★英語基礎演習III・実習演習III ★英語基礎演習IV・実習演習IV 教養科目×1 第二外国語I 第二外国語II 必修14選択1 必修14選択2 必修2選択2 必修3選択2	★英語基礎演習IV・実習演習IV 教養科目×1 第二外国語I 第二外国語II 必修14選択1 必修14選択2 必修2選択2 必修3選択2	必修3選択10 必修3選択8 必修4選択4 必修4選択2	必修3選択10 必修3選択8 必修4選択4 必修4選択2	必修4選択4 必修4選択2	必修4選択2
専門	必修7選択2 必修3選択2	必修10選択2 必修7選択2 必修3選択2	必修14選択2 必修14選択2 必修2選択2 必修3選択2	必修14選択2 必修14選択2 必修2選択2 必修3選択2	必修3選択10 必修3選択8 必修4選択4 必修4選択2	必修3選択10 必修3選択8 必修4選択4 必修4選択2	必修4選択4 必修4選択2	必修4選択2
基礎教育	必修7選択2 必修3選択2	必修10選択2 必修7選択2 必修3選択2	必修14選択2 必修14選択2 必修2選択2 必修3選択2	必修14選択2 必修14選択2 必修2選択2 必修3選択2	必修3選択10 必修3選択8 必修4選択4 必修4選択2	必修3選択10 必修3選択8 必修4選択4 必修4選択2	必修4選択4 必修4選択2	必修4選択2
合計	24単位	23単位	24単位	22単位	15単位	13単位	6単位	6単位
								133単位

情報システムモデル(システム開発系) ★は必修科目							
	1年次前期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
専門基礎	★情報基礎数学A ★情報基礎数学B	★情報基礎数学B	★キャリアデザイン	★キャリアデザインI システムデザイン論 システムデザイン実践論	★キャリアデザインII システムデザイン論 システムデザイン実践論	★プロジェクト演習II	
キャリア学習		★キャリアデザイン					
専門共通 (1,2年次)	★ソフトウェア演習A ★離散数学	★ソフトウェア演習B ★線形代数 ★デジタル回路	★ソフトウェア演習C ★計算モジュール論 ★解新学 ★線形代数 ★コンピュータアーキテクチャI ★オペレーティングシステム論	★プロジェクト演習I	★ソフトウェア演習D ★アルゴリズム論 ★統計学	★プロジェクト演習II	シミュレーション学 性能評価
展開 (3,4年次)	★コンピュータシステム序論 ★ソフトウェア情報学総論	★プログラムの言語構造論I ★プログラムの言語構造論II	★情報システム基礎論 ★ソフトウェア設計学 ★情報ネットワーク論 ★情報システム基礎論II ファイルとデータベース 情報システム構築学I ★専門英語	★ソフトウェア演習II ★データベース ★情報システム構築学II ★情報システム構築学I ★専門英語II	★ソフトウェア設計実践論 ★情報ネットワーク実践論 ★情報システム基礎論III ★情報システム構築学II ★情報システム構築学I ★専門英語III	★プロジェクト演習III	応用情報システム学 性能評価
関連	★科学技術史 ★思想学	★科学技術史 ★思想学	★情報と法律	★情報システム演習I ★専門英語II	★情報システム演習II ★情報システム演習I ★専門英語III	★プロジェクト演習III	応用情報システム学 性能評価
研究				★情報システム演習I ★専門英語II	★情報システム演習II ★情報システム演習I ★専門英語III	★プロジェクト演習III	情報システムゼミA ★卒業研究・制作A
基礎教育	★英語基礎演習I・実践演習I ★情報リテラシー ★基礎教養入門 ★教養科目×2 ★いわて創発入門	★英語基礎演習II・実践演習II ★学の世界入門 ★基礎教養入門 ★教養科目×4 ★健康科学 ★いわて創発入門	★英語基礎演習III ★第二外国語I 必修14 選択2 必修3 選択2	★英語基礎演習IV・実践演習IV ★第二外国語II 必修14 選択4 必修2 選択2	★英語基礎演習IV・実践演習IV ★第二外国語II 必修14 選択4 必修2 選択2	★プロジェクト演習III	情報システムゼミA ★卒業研究・制作B
専門	必修1 選択2 必修3 選択4	必修1 選択2 必修3 選択4	必修14 選択2 必修2 選択2	必修14 選択4 必修2 選択2	必修14 選択4 必修2 選択2	必修3 選択6 必修4 選択9	必修4 選択2
基礎教育	必修1 選択2 必修3 選択4	必修1 選択2 必修3 選択4	必修14 選択2 必修2 選択2	必修14 選択4 必修2 選択2	必修14 選択4 必修2 選択2	必修3 選択6 必修4 選択9	必修4 選択2
合計	24単位	23単位	20単位	22単位	17単位	9単位	6単位
							139単位

情報システムモデル(システム応用系) ★は必修科目							
	1年次前期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
専門基礎	★情報基礎数学A ★情報基礎数学B	★情報基礎数学B	★キャリアデザイン	★キャリアデザインI システムデザイン論 システムデザイン実践論	★キャリアデザインII システムデザイン論 システムデザイン実践論	★プロジェクト演習II	
キャリア学習		★キャリアデザイン					
専門共通 (1,2年次)	★ソフトウェア演習A ★離散数学	★ソフトウェア演習B ★線形代数 ★デジタル回路	★ソフトウェア演習C ★計算モジュール論 ★解新学 ★線形代数 ★コンピュータアーキテクチャI ★オペレーティングシステム論	★ソフトウェア演習D ★アルゴリズム論 ★統計学	★ソフトウェア演習E ★アルゴリズム論 ★統計学	★プロジェクト演習II	シミュレーション学 性能評価
展開 (3,4年次)	★コンピュータシステム序論 ★ソフトウェア情報学総論	★プログラムの言語構造論I ★プログラムの言語構造論II	★情報システム基礎論 ★ソフトウェア設計学 ★情報ネットワーク論 ★情報システム基礎論II ファイルとデータベース 情報システム構築学I ★専門英語	★ソフトウェア設計実践論 ★情報ネットワーク実践論 ★情報システム基礎論III ★情報システム構築学II ★情報システム構築学I ★専門英語II	★ソフトウェア設計実践論 ★情報ネットワーク実践論 ★情報システム基礎論III ★情報システム構築学II ★情報システム構築学I ★専門英語III	★プロジェクト演習III	応用情報システム学 性能評価
関連	★科学技術史 ★思想学	★科学技術史 ★思想学	★情報と法律	★情報システム演習I ★専門英語II	★情報システム演習II ★情報システム演習I ★専門英語III	★プロジェクト演習III	応用情報システム学 性能評価
研究				★情報システム演習I ★専門英語II	★情報システム演習II ★情報システム演習I ★専門英語III	★プロジェクト演習III	情報システムゼミA ★卒業研究・制作A
基礎教育	★英語基礎演習I・実践演習I ★情報リテラシー ★基礎教養入門 ★教養科目×2 ★いわて創発入門	★英語基礎演習II・実践演習II ★学の世界入門 ★基礎教養入門 ★教養科目×3 ★健康科学 ★いわて創発入門	★英語基礎演習III ★第二外国語I 必修10 選択2 必修3 選択4	★英語基礎演習IV・実践演習IV ★第二外国語II 必修14 選択2 必修2 選択2	★英語基礎演習IV・実践演習IV ★第二外国語II 必修14 選択2 必修2 選択2	★プロジェクト演習III	情報システムゼミA ★卒業研究・制作B
専門	必修1 選択2 必修3 選択4	必修1 選択2 必修3 選択4	必修10 選択2 必修3 選択4	必修14 選択2 必修2 選択2	必修14 選択2 必修2 選択2	必修3 選択12 必修4 選択4	必修4 選択2
基礎教育	必修1 選択2 必修3 選択4	必修1 選択2 必修3 選択4	必修10 選択2 必修3 選択4	必修14 選択2 必修2 選択2	必修14 選択2 必修2 選択2	必修3 選択12 必修4 選択4	必修4 選択2
合計	24単位	23単位	22単位	13単位	15単位	8単位	6単位
							139単位

Ⅱ 授 業 科 目

1 基盤教育科目

■ 基盤教育科目の意義

基盤教育科目は、人間性、倫理性を高める豊かで幅広い教養と基本的なコミュニケーション能力、またグローバルな視点から主体的に問題を発見するとともに、自ら考え判断し、課題解決できる能力を涵養することを目的としています。学部の専門科目とともに、4年間の学びを構成する重要な科目群です。この科目群は、全ての学部・学年に共通に開講することで、学部・学年の垣根を越えて、お互いに影響を与え合いながら、ともに学ぶことを重視しています。

《基礎科目》

英語

教養教育や専門教育の基盤となる視野や語学力を身につけ、生涯を通じて英語に親しみ、英語を学習していくための知識・技能・態度を養うことを目的としており、英語基礎演習Ⅰ～Ⅳと、英語実践演習Ⅰ～Ⅳを習熟度別の4学部混成クラスにより履修します。

情報処理

情報倫理やWebページの作成方法などを学習し、各種ソフトウェアを用いながら4学部混成のグループで課題に取り組みます。

入門演習

大学での学習方法(「論理的な思考力を鍛える」「討論に加わる」「レポートを作成する」等)を身につけます。

地域学習

地域に根ざした大学である岩手県立大学や岩手県について学ぶとともに、地域課題の発見・解決方法を自ら考える科目です。

《教養科目》

領域科目

これまで人が築いてきた“知”を伝え・学ぶことを目的としています。複数の学問領域の「～学的なものの見方・考え方」に触れ、学問に親しみ、学問を楽しむ経験をしてください。

それぞれの専門分野を相対的に見る視点を養うことを重視しているため、各学部によって履修できる科目が異なります。

テーマ科目

ある課題状況や事象に焦点を当て、それに対して多角的・学際的にアプローチする方法を身につけることが目的です。正解が1つではない、あるいは未だ解決策が見出されていないような本質的、普遍的、今日的な課題や問題に対し、様々な観点から分析・考察を行い、根拠に基づく自分なりの考えを構築していくプロセスを学びます。

プロジェクト科目

経験から学ぶこと、また、学んだことを人間性豊かな社会の形成に活かすことが目的です。授業を通して、学ぶことの意味や学問と社会とのつながりを考えてみてください。

《保健体育》

生涯を通しての心身の健康や健康的な生活・生き方について総合的に考える科目です。

《外国語科目》

多様化する社会において、英語以外の外国語を学ぶことにより、広い視野を養います。

中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語の6言語のほか、外国人留学生を対象とした日本語を開講しています。

日本語を除き、外国語Ⅰ～Ⅱは選択必修として2年次から、Ⅲ～Ⅳは卒業に必要な単位数としては認定されない自由聴講科目として3年次から履修することができます。

基盤教育科目一覧表

授業科目の名称		開講年次	単位数			GPA	備考		
			必修	選択	自由				
基礎科目	英語	英語基礎演習Ⅰ	1 前	1			○	必修8単位	
		英語実践演習Ⅰ	1 前	1			○		
		英語基礎演習Ⅱ	1 後	1			○		
		英語実践演習Ⅱ	1 後	1			○		
		英語基礎演習Ⅲ	2 前	1			○		
		英語実践演習Ⅲ	2 前	1			○		
		英語基礎演習Ⅳ	2 後	1			○		
		英語実践演習Ⅳ	2 後	1			○		
		応用英語Ⅰ	1・2・3・4前			1			
		応用英語Ⅱ	1・2・3・4後			1			
情報処理	情報リテラシー	1 前	2			○	必修2単位		
入門演習	基礎教養入門 学の世界入門	1 前	1			○	必修2単位		
		1 後	1			○			
地域学習	いわて創造入門 いわて創造実践演習	1 前	2			○	必修2単位		
		3・4後			2				
基盤教育科目	領域科目	哲学の世界	1・2・3・4後		2		○	選択 領域科目 4単位、 テーマ科目 4単位を含 めて計12単 位以上	
		芸術学の世界	1・2・3・4前		2		○		
		文学の世界	1・2・3・4前		2		○		
		言語学の世界	1・2・3・4前		2		○		
		歴史学の世界	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学の世界	1・2・3・4後		2		○		
		社会学の世界	1・2・3・4前		2		○		
		教育学の世界	1・2・3・4後		2		○		
		物理学の世界	1・2・3・4後		2		○		
		化学の世界	1・2・3・4前		2		○		
		生物学の世界	1・2・3・4前		2		○		
		地球科学の世界	(H30年度開講せず)		2		○		
		看護学の世界	1・2・3・4後		2		○		
		心理学の世界	1・2・3・4前		2		○		
		社会福祉学の世界	1・2・3・4後		2		○		
		経営学の世界	1・2・3・4前		2		○		
		地理学の世界	1・2・3・4前		2		○		
		生態学の世界	1・2・3・4後		2		○		
		法学の世界	1・2・3・4後		2		○		
		政治学の世界	1・2・3・4前		2		○		
		経済学の世界	1・2・3・4後		2		○		
	教養科目	テーマ科目	自己と他者	(H30年度開講せず)		2			○
			個と集団	1・2・3・4前		2			○
			社会と情報	1・2・3・4前		2			○
			地域社会と健康	1・2・3・4後		2			○
			科学技術と倫理	1・2・3・4前		2			○
			環境と疾病	1・2・3・4後		2			○
			ジェンダーと文化	1・2・3・4後		2			○
			開発と環境	1・2・3・4後		2			○
			人間と職業	1・2・3・4後		2			○
			音と聴覚	1・2・3・4後		2			○
			人間行動の起源	1・2・3・4後		2			○
			異文化間接触と多文化共生	(H30年度開講せず)		2			○
子どもと環境	(H30年度開講せず)		2		○				
加齢と生活	1・2・3・4前		2		○				
情報技術とグローバリゼーション	1・2・3・4後		2		○				
映像文化と人間	1・2・3・4後		2		○				
ことばの力と限界	1・2・3・4前		2		○				
障害者の就労と支援	1・2・3・4後		2		○				
地域と情報	1・2・3・4前		2		○				
地域社会とボランティア	1・2・3・4前		2		○				
岩手のなりたちと自然災害	1・2・3・4前		2		○				
地域コミュニティとまちづくり	1・2・3・4前		2		○				
人とケア	1・2・3・4後		2		○				

授業科目の名称				開講年次	単位数			GPA	備考
					必修	選択	自由		
基盤教育科目	教養科目	プロジェクト科目	プロジェクトA	1・2・3・4前		2		○	
			プロジェクトB	1・2・3・4後		2		○	
			プロジェクトC	(H30年度開講せず)		2		○	
			プロジェクトD	1・2・3・4前		2		○	
			プロジェクトE	(H30年度開講せず)		2		○	
			プロジェクトF	(H30年度開講せず)		4		○	
			いわて創造学習Ⅰ	1・2通年		2		○	
	いわて創造学習Ⅱ	2・3・4通年		2		○			
	保健体育	健康科学		1・2前後		2		○	選択1単位以上
		体育実技		1・2前後		1		○	
	外国語科目	外国語	中国語Ⅰ	2前		2		○	選択 同一外国語に係るⅠ及びⅡをセットで4単位以上
			中国語Ⅱ	2後		2		○	
			韓国語Ⅰ	2前		2		○	
			韓国語Ⅱ	2後		2		○	
			ドイツ語Ⅰ	2前		2		○	
			ドイツ語Ⅱ	2後		2		○	
			フランス語Ⅰ	2前		2		○	
			フランス語Ⅱ	2後		2		○	
			ロシア語Ⅰ	2前		2		○	
			ロシア語Ⅱ	2後		2		○	
			スペイン語Ⅰ	2前		2		○	
			スペイン語Ⅱ	2後		2		○	
			日本語Ⅰ ※	1・2・3・4前後		2		○	
日本語Ⅱ ※		1・2・3・4前後		2		○			
外国語自由聴講科目		中国語Ⅲ		3・4前			2		
		中国語Ⅳ		3・4後			2		
		韓国語Ⅲ		3・4前			2		
		韓国語Ⅳ		3・4後			2		
		ドイツ語Ⅲ		3・4前			2		
		ドイツ語Ⅳ		3・4後			2		
	フランス語Ⅲ		3・4前			2			
フランス語Ⅳ		3・4後			2				
ロシア語Ⅲ		3・4前			2				
ロシア語Ⅳ		3・4後			2				
スペイン語Ⅲ		3・4前			2				
スペイン語Ⅳ		3・4後			2				
日本語Ⅲ ※	1・2・3・4前後				2				
日本語Ⅳ ※	1・2・3・4前後				2				

※ 日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは外国人留学生のみ選択可能。
 外国語Ⅱ～Ⅳの科目には先修条件が設定されているが、日本語Ⅰ・Ⅱと日本語Ⅲ・Ⅳの先修条件は設けない。ただし、原則として、日本語Ⅱは日本語Ⅰを履修した後に、日本語Ⅳは日本語Ⅲを履修した後に、それぞれ履修するものとする。
 いわて創造学習Ⅱは履修にあたって先修条件として、いわて創造学習Ⅰの単位修得が必要。
 「いわて創造実践演習」は履修するための条件が設けられている。詳細はP.14の「2. 副専攻の内容『キャップストーン科目』」を参照のこと。

2 専門科目

授業科目の名称		開講年次	単位数			GPA 対象	備考
			必修	選択	自由		
専門 基礎科目	情報基礎数学A	1前、1後	1			—	必修： 3単位
	情報基礎数学B	1後、2前	1			—	
	情報基礎数学C	1前、1後	1			—	
キャリア 学習科目	キャリアデザイン I	2前	1			○	必修： 6単位 選択： キャリア学習科目、専門共通科目、展開 科目、関連科目の中から30単位以上を修 得する必要がある。
	キャリアデザイン II	3前	1			○	
	プロジェクト演習 I	2後	1			○	
	プロジェクト演習 II	3後	1			○	
	スタディスキルズ	1前	2			○	
	システムデザイン論	3前		2		○	
	システムデザイン実践論	3前		2		○	
	システムデザインPBL	3後			1	—	
	インターンシップ I	2後		1		○	
	インターンシップ II	3後		1		○	
専門 共通科目	ソフトウェア演習A	1前	1			○	必修： 38単位 選択： キャリア学習科目、専門共通科目、展開 科目、関連科目の中から30単位以上を修 得する必要がある。
	ソフトウェア演習B	1後	1			○	
	ソフトウェア演習C	2前	1			○	
	ソフトウェア演習D	2後	1			○	
	アルゴリズム論	2後	2			○	
	オペレーティングシステム論	2前	2			○	
	解析学	2前	2			○	
	計算モデル論	2前	2			○	
	コンピュータアーキテクチャ I	2前	2			○	
	コンピュータシステム序論	1前	2			○	
	情報システム基礎論 I	2前	2			○	
	情報システム基礎論 II	2後	2			○	
	情報ネットワーク論	2後	2			○	
	線形代数	2前	2			○	
	ソフトウェア情報学総論	1前	2			○	
	ソフトウェア設計学	2後	2			○	
	デジタル回路	1後	2			○	
	統計学	2後	2			○	
	プログラム言語構造論 I	1後	2			○	
	プログラム言語構造論 II	1後	2			○	
	離散数学	1後	2			○	
	幾何学	2後		2		○	
	情報システム構築学 I	2後		2		○	
	数論と代数	2後		2		○	
	知能システム学 I	2後		2		○	
	知能システム総論	2前		2		○	
	デジタル信号処理	2後		2		○	
	ハードウェア基礎	2前		2		○	
	ヒューマンインタフェース	2前		2		○	
	ファイルとデータベース	2後		2		○	
メディア論	1後		2		○		
モデリング実践論	2後		2		○		
展開 科目	アプリケーション総論	3後		2		○	選択： キャリア学習科目、専門共通科目、展開 科目、関連科目の中から30単位以上を修 得する必要がある。
	応用情報システム学	3後		2		○	
	感性情報学	4前		2		○	
	組込みOS論	3前		2		○	
	組込みシステム論	3後		2		○	
	コミュニケーション論	3前		2		○	
	コンパイラの理論と実際	3前		2		○	
	コンピュータアーキテクチャ II	3前		2		○	
	CG幾何学	3後		2		○	
	自然言語処理	3後		2		○	
	シミュレーション学	4前		2		○	
	情報環境論	3後		2		○	
	情報システム構築学 II	3前		2		○	
	情報ネットワーク実践論	3前		2		○	
	数値計算の理論と実際	3前		2		○	

授業科目の名称		開講年次	単位数			GPA 対象	備考
			必修	選択	自由		
展開科目	性能評価	4前		2		○	選択: キャリア学習科目、専門共通科目、展開科目、関連科目の中から30単位以上を修得する必要がある。
	セキュリティ論	3前		2		○	
	先端ソフトウェア情報学	4前		2		○	
	戦略情報システム学	4前		2		○	
	ソフトウェア設計実践論	3前		2		○	
	知能機械	3後		2		○	
	知能システム学Ⅱ	3前		2		○	
	統合情報システム学Ⅰ	3前		2		○	
	統合情報システム学Ⅱ	3後		2		○	
	ビジュアル情報処理学	4前		2		○	
	ファームウェア学	3前		2		○	
	分散システム実践論	3後		2		○	
	分散システム論	3前		2		○	
	マイクロコンピュータ制御	3後		2		○	
メディアシステム学	3前		2		○		
関連科目	科学技術史	1前	2			○	必修: 8単位 選択: キャリア学習科目、専門共通科目、展開科目、関連科目の中から30単位以上を修得する必要がある。
	専門英語Ⅰ	2後	2			○	
	専門英語Ⅱ	3前	2			○	
	専門英語Ⅲ	3後	2			○	
	応用心理学	1後		2		○	
	会計情報学	3前		2		○	
	起業論	1後		2		○	
	経営情報学	3後		2		○	
	情報規格総論	3後		2		○	
	情報と法律	2前		2		○	
発想学	1前		2		○		
研究科目	基盤	基盤システム演習Ⅰ	3前		2	—	必修: 8単位 選択: 所属講座で開講されている4科目8単位を修得する必要がある。
		基盤システム演習Ⅱ	3後		2	—	
		基盤システムゼミA	4前		2	—	
		基盤システムゼミB	4後		2	—	
	メディア	メディアシステム演習Ⅰ	3前		2	—	
		メディアシステム演習Ⅱ	3後		2	—	
		メディアシステムゼミA	4前		2	—	
		メディアシステムゼミB	4後		2	—	
	知能	知能システム演習Ⅰ	3前		2	—	
		知能システム演習Ⅱ	3後		2	—	
		知能システムゼミA	4前		2	—	
		知能システムゼミB	4後		2	—	
	情報	情報システム演習Ⅰ	3前		2	—	
		情報システム演習Ⅱ	3後		2	—	
情報システムゼミA		4前		2	—		
情報システムゼミB		4後		2	—		
	卒業研究・制作A	4前	4			—	
	卒業研究・制作B	4後	4			—	
教職関連科目	教科科目	情報と職業	3後		2	○	
		日本国憲法	2後		2	○	
	教職科目	教育課程論	2前		2	○	
		教育行政学	2後		2	○	
		教育原理	1後		2	○	
		教育実習Ⅰ	4前		1	○	
		教育実習Ⅱ(高等学校)	4		2	○	
		教育心理学	1後		2	○	
		教育相談論	2後		2	○	
		教育方法論	3前		2	○	
		教職概論	2前		2	○	
		教職実践演習(中・高)	4後		2	○	
		情報科教育法Ⅰ	3前		2	○	
		情報科教育法Ⅱ	3後		2	○	
生徒指導論	2後		2	○			
特別活動論	2前		2	○			
進路指導論	2後		1	○			

Ⅲ 教育職員養成課程

教育職員養成課程

1. 教職課程

「教育職員免許状」を取得するためには、卒業に必要な単位取得に加えて、教職課程の単位を取得しなければなりません。

教職課程の履修にあたっては、将来教員になろうとする強い意志を持って臨んでください。

■ 免許状の種類

本学部で取得できる免許状の種類は『高等学校教諭一種免許状(情報)』です。

■ 免許状取得単位数

本学部で教員免許状を取得するための、最低取得単位数は次のとおりです。

また、「学士の学位を有すること」が基礎資格とされており、卒業することが要件となります。

【最低取得単位数】

	教科に関する科目	教職に関する科目	※第66条の科目
高等学校教諭一種免許状(情報)	36	28	11

※ 第66条の科目とは、「教育職員免許法施行規則第66条の6」に定める科目です。

2. 教育実習

教育実習は、教職科目の中で学んだ学習の成果を、教育現場で生かしながら体験的に学ぶ重要な意味を持つ科目です。

履修時期は4年次となっています。

■ 教育実習の期間

高等学校教諭一種免許状 2週間

■ 教育実習校

教育実習は原則として、出身校に依頼します。ただし、出身校の廃校など、特別な事情により、出身校での実習が困難と認められる場合に限り、大学が指定する協力校で実習を行います。

■ 教育実習先修要件

教育実習を履修するためには、それまでに単位を取得しておかなければならない科目があります。詳しくは教職課程科目一覧で確認してください。

各自が、履修計画を立て、確実に単位を取得するよう努力してください。

■ ガイダンス

教育実習をはじめとする教職課程履修関係については、必要な時期にガイダンスを行います。掲示により連絡しますので、必ず出席してください。

3. 免許状申請

教育職員免許状は、大学が岩手県教育委員会に一括申請を行い、卒業式当日に免許状が授与される見込みとなっています。

4. 免許取得スケジュール

時期(予定)		教職関連事項
2年次	1月下旬	教育実習ガイダンス
	2月～3月	教育実習校受入内諾依頼(口頭)
3年次	4月中旬	教育実習履修希望登録
	8月～9月	教育実習校受入内諾依頼(内諾依頼文書持参)
	10月中旬	教育実習校配置決定
4年次	4月上旬	教育実習履修承認発表
		教育実習ガイダンス
	4月中旬	教育実習関係書類提出
	4月～5月	教育実習Ⅰ(事前指導)
	概ね6月～7月	教育実習Ⅱ(高等学校での実習)
	実習終了後	教育実習Ⅰ(事後指導)
	7月～	教員採用試験
	12月下旬	教職免許状申請ガイダンス
	3月上旬	教職免許状一括申請
	3月下旬	教職免許状授与

5. 教職課程科目一覧

免許法施行規則に定める科目区分等		法定最低 単位数	授業科目の名称	単位数		備 考
免許法施行規則に定める科目区分				必修	選択	
教科に関する科目	情報社会及び情報倫理	20	○情報と法律 情報環境論 メディア論	2	2 2	
	コンピュータ及び情報処理(実習を含む。)		○コンピュータアーキテクチャⅠ コンピュータアーキテクチャⅡ ○オペレーティングシステム論 組込みOS論 ○ソフトウェア演習A ○ソフトウェア演習B ○ソフトウェア演習C ハードウェア基礎 モデリング実践論 コンパイラの理論と実際	2 2 2 1 1 1	2 2	
	情報システム(実習を含む。)		○ソフトウェア設計学 ○ソフトウェア設計実践論 ○情報システム基礎論Ⅰ ○情報システム基礎論Ⅱ ファイルとデータベース 情報システム構築学Ⅰ 情報システム構築学Ⅱ ソフトウェア演習D	2 2 2 2 1	2 2 2	
	情報通信ネットワーク(実習を含む。)		○情報ネットワーク論 情報ネットワーク実践論 コミュニケーション論 分散システム論 分散システム実践論	2 2	2 2 2	
	マルチメディア表現及び技術(実習を含む。)		○デジタル信号処理 メディアシステム学 ヒューマンインターフェース シミュレーション学	2 2	2 2	
	情報と職業		情報と職業 統合情報システム学Ⅰ 統合情報システム学Ⅱ 戦略情報システム学 起業論	2	2 2 2 2	
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	16	教職の意義及び教員の役割 教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。) 進路選択に資する各種の機会の提供等	○教職概論	2	
	教育の基礎理論に関する科目		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	○教育原理 ○教育心理学	2 2	
	教育課程及び指導法に関する科目		教育課程の意義及び編成の方法 各教科の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育行政学 教育課程論 ○情報科教育法Ⅰ ○情報科教育法Ⅱ 特別活動論 教育方法論	2 2 2 2 2	
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目		生徒指導の理論及び方法 進路指導の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	○生徒指導論 進路指導論 ○教育相談論	2 1 2	
	教職実践演習		教職実践演習(中・高)	2		
	教育実習		教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ(高等学校)	1 2		
	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		日本国憲法	○日本国憲法	2	
			体育	○健康科学 ○体育実技	2 1	
			外国語コミュニケーション	○英語実践演習Ⅰ ○英語実践演習Ⅱ ○英語実践演習Ⅲ ○英語実践演習Ⅳ	1 1 1 1	
				情報機器の操作	○情報リテラシー	2

注1) 必修又は選択の別は、教育職員免許状を取得する上での必修・選択の別であり、卒業要件としての必修・選択の別とは異なるものです。
 注2) ○の付いた授業科目は、教育実習Ⅰ・Ⅱの先修科目です。また、「教職に関する科目」は○印の7科目14単位を含む20単位を修得している必要があります。
 注3) 教科に関する科目は、必修科目の28単位に加え、選択科目から4科目8単位以上を修得し、合計で36単位以上とする必要があります。

IV 履修登録下書き表

履修登録下書き表【記入例】

◆基本的な時間割の組み方◆

授業科目一覧表で自分の年次に開講される科目を確認し、時間割を見ながら次の手順に従って時間割を埋めていきます。科目選択の際は、必ずシラバスに目を通し授業内容を確認してください。

手順①「基盤教育科目」の必修科目を入れます。

手順②自分の学部の「専門科目」の必修科目を入れます。

手順③空いているところに「専門科目」の選択科目を入れます。

手順④さらに空いているところに「基盤教育科目」の選択科目を入れます。

手順⑤単位数を合計し、「各学期に履修できる単位数の上限」を超えていないことを確認します。

※ 数学プレイスメント・テストに合格し、先行履修科目を履修する場合の単位数の計上方法は以下のとおりです。
 情報基礎数学→登録単位数に含まれます。先行履修科目→登録単位数に含まれません。
 例) 情報基礎数学Aに合格し解析学を履修する→1単位として計上します

1 年 生 前 期

←
 ・科目名
 ・単位数
 を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限	手順② 科学技術史 2				手順② コンピュータシステム序論 2
2時限	手順① 英語実践演習Ⅰ 1	手順① 情報リテラシー 2			
3時限	手順① いわて創造入門 2	手順④ 地域科学の世界 2	手順① 基礎教養入門 1	手順② ソフトウェア情報学総論 2	手順② スタディスキルズ 2
4時限		手順④ 体育実技 1		手順② 情報基礎数学A (解析学) 1	手順② 情報基礎数学C (線形代数) 1
5時限			手順① 英語基礎演習Ⅰ 1	手順② ソフトウェア演習A 1	
集中講義・ 実習など	手順③ 発想学 2				

単位数の上限
24 単位

≥

合計単位数
23 単位

※履修登録単位数の上限はP.38で確認してください。

時間割を全て組み終わったら、履修登録をしましょう！

履修登録下書き表

年生 期

・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					

シラバス検索画面
QRコード

Web学生便覧
QRコード

履修上限単位

単位

≧

合計単位数

単位

履修登録下書き表

年生 期

・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					

シラバス検索画面
QRコード



Web学生便覧
QRコード



履修上限単位

単位

≧

合計単位数

単位

履修登録下書き表

年生 期



・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					

シラバス検索画面
QRコード

Web学生便覧
QRコード

履修上限単位

単位

≧

合計単位数

単位

履修登録下書き表

年生 期



・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					

シラバス検索画面
QRコード

Web学生便覧
QRコード

履修上限単位

単位

≧

合計単位数

単位

履修登録下書き表

年生 期



・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					

シラバス検索画面
QRコード

Web学生便覧
QRコード

履修上限単位

単位

≧

合計単位数

単位

履修登録下書き表

年生 期

・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					

シラバス検索画面
QRコード



Web学生便覧
QRコード



履修上限単位

単位

≧

合計単位数

単位

履修登録下書き表

年生 期



・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					

シラバス検索画面
QRコード

Web学生便覧
QRコード

履修上限単位

単位

≧

合計単位数

単位

履修登録下書き表

年生 期



・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					

シラバス検索画面
QRコード

Web学生便覧
QRコード

履修上限単位
単位

≧

合計単位数
単位

ソフトウェア情報学研究科

I ソフトウェア情報学研究科 博士前期課程の概要

博士前期課程

1. 概要

博士前期課程では、学部教育における基本原理の修得や基本原理適用の実践を踏まえて、授業科目の履修、ゼミナール及び特別研究による研究指導を通じて、問題発見能力を修得するとともに、問題解決能力を養います。

2. 教育研究領域

博士前期課程での教育研究領域は、基盤情報システムと知能メディアシステムの2領域で構成されており、各領域の内容は次のとおりです。

《基盤情報システム領域》

計算処理メカニズムを主体とするソフトウェア情報学の基盤要素と、その基盤要素を企業や社会に適用する情報システムにおける手法などに関する研究領域

《知能メディアシステム領域》

知能及び知識処理を主体とするソフトウェア情報学の基盤要素と、その基盤要素をメディア情報システムに適用し、より高度なメディア情報システムを構築することに関する研究領域

3. 教育研究目標

博士前期課程においては、ますます複雑化・高度化している情報化社会にあって、ソフトウェア情報学の観点から、実社会に散在する問題を発見する能力とその問題を実際に解決できる実践的能力を身につけた人材の養成を目指しています。

具体的には次のような人材を育成することを目標とします。

- ❖ 情報関連企業の基盤ソフトウェア及び情報システムの開発において、現状の課題を把握し、その課題を解決できる人材、あるいは、知能及びメディアを利用した新システム開発の課題を解決できる人材
- ❖ 一般企業の情報システムの企画、構築、運用において情報システムの利用の立場から現状の課題を把握し、その課題を解決できる人材、あるいは、知能及びメディアを利用した新システムの適用課題を解決できる人材
- ❖ 大学、企業においてソフトウェア情報関連分野の研究開発に従事できる人材

4. ディプロマ・ポリシー(DP)、カリキュラム・ポリシー(CP)

■ 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

ソフトウェア情報学研究科では、本学の建学の理念、教育の特色、教育研究上の目的を踏まえ、自身の専門性を活かし、真に利用者の立場から情報技術・システムを企画・設計・開発・保守・運用できる高い志と学識を持つ人材、そして国際的な視野で通用する独創性を備えた人材の育成を図り、本学学則に定める修了要件を満たした学生を、次に掲げる「学生が修了までに身につけるべき能力」を備えたものとして、博士前期課程においては学位『修士(ソフトウェア情報学)』を授与します。

《修了までに身につけるべき能力》

- DP1. 自身の適性や能力を的確に把握し、意欲的かつ計画的に学習・研究を継続し、新しい情報技術・システムを創造することができる。
- DP2. 情報技術分野に対する情熱を持ち、人間や社会に及ぼす様々な影響や効果を判断し、技術者または研究者としての責任を感じることができる。
- DP3. 利用者の立場から、本質的な問題・課題を見出し、適切な解決方法を導き出し、問題・課題を解決することができる。
- DP4. 技術者・研究者の立場から、情報技術・システムの幅広い知識とスキル、そして自身の専門分野における学識を活用し、様々な問題・課題に適した仕組みを企画・設計・開発・保守・運用することができる。
- DP5. 国際的な視野に立ち、自身の見解を分かりやすく表現できるとともに、他者の意見を受け入れ論理的な議論を交わすことができる。

■ 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

ソフトウェア情報学研究科では、「人に優しい情報化社会」の実現に寄与する人材を育成するため、専門教育と人間教育を一体化した実学・実践の教育・研究を実施します。博士前期課程では、国際的な視野で通用する独創性を備え、多様化・複雑化する様々な問題の効果的な解決策となり得る情報技術・システムを創造する能力を養うために、次のような方針で科目を編成しています。

- CP1. ソフトウェア情報学研究科における幅広い専門分野の先端の知識・技術を網羅的に把握して情報技術・システムの知識とスキルを高めるとともに、自身の専門分野における学識を深化させ、新しい情報技術・システムを創造するための基礎を養う科目を、展開科目として配置します。
- CP2. 情報技術・システムと人間や社会との係わりを理解し、自身の適性や能力を踏まえ、社会における技術者または研究者としての役割を担うために必要となる実践的なスキルを修得するための科目を、実践科目として配置します。
- CP3. 自らが計画的に学習・研究を継続し、自身の知識とスキルを磨き、新しい情報技術・システムを創造する能力を身に付けるための科目を研究指導科目として配置します。研究指導科目では、複数教員により多様な価値観に基づく客観的な研究指導を実施し、自身の研究に対する論理的な議論を交わす能力や、国際的な視野で自身の見解を表現する能力を養い、技術者・研究者と利用者の両面から様々な問題・課題に適した解決方法を導き出す能力を修得します。

5. 教育課程の内容・特色

博士前期課程の教育課程は、「専門科目」「実践科目」及び「研究指導科目」により構成しています。

《専門科目》

教育研究領域ごとに、より高度で先端的な内容の講義科目を配置しており、履修モデルに応じて7科目14単位以上を履修することになっています。

《実践科目》

実社会での問題を的確に把握し、創造的かつ実践的な研究手法を修得することを重視する立場から、実践科目を配置しています。実践科目には、「ソフトウェア実践演習」と「プロジェクト実践演習」があります。

ソフトウェア実践演習

「ソフトウェア実践演習」は、実際にソフトウェアシステムなどを構築する際の様々な問題の中から、体系的かつ効果的に問題解決を実践し、問題解決の実践方法を修得しようとするもので、具体的には、実社会での問題をテーマとする事例研究を行います。事例研究を行うために学生が企業の現場に参加することもあります。また、問題を学内へ持ち帰って研究することもあります。

プロジェクト実践演習

「プロジェクト実践演習」は、学生が自主的にチームを作り、自主的に目標、開発仕様、工程計画などを設定する制作プロジェクトの実践科目です。プロジェクトを実施するには計画書を教員へ提出し、承認を受ける必要があります。物品費用を申請し、教員の査定を受けて予算として与えられます。単位認定を受けるためには、代表者、又は、副代表者として、プロジェクトを実施し、成果発表会で発表を行い、成果報告書が教員に承認される必要があります。

《研究指導科目》

研究指導科目は、学生が研究を始めるために必要な研究手法等を学ぶ「ゼミナール」、「ソフトウェア情報学研究」及び「公開ゼミナール」があります。

ゼミナール

ゼミナールでは、実学実践を基本的立場とする研究に取り組むための基礎としての位置づけのもとに、コミュニケーション能力、研究方法論及び実践的研究手法等を修得することを目的としています。「ソフトウェア情報学ゼミナールⅠ」、「ソフトウェア情報学ゼミナールⅡ」及び「ソフトウェア情報学ゼミナールⅢ」の3科目を配置しています。

【ソフトウェア情報学ゼミナールⅠ】

1年次前期に開講され、実学実践の観点から企業等の現実の問題を題材として、資料作成及び発表技法等のコミュニケーション能力を身につけることを目指します。

【ソフトウェア情報学ゼミナールⅡ】

1年次後期に開講され、実学実践の観点から各研究領域に関する研究論文の輪読、実社会における技術動向の調査、企業等からのゲスト・スピーカーの招聘等により、専門知識を深く理解するとともに、発展的技術及び応用分野の可能性を探求します。

【ソフトウェア情報学ゼミナールⅢ】

2年次前期に開講され、実学実践の観点から実社会での問題を的確に把握するとともに、創造的かつ実践的な問題解決手法を学びます。

※短期修了に対するゼミナール履修上の配慮

1年間で優れた業績を上げることが見込まれ、短期修了を希望する学生は、当該指導教員の許可のもと、「公開ゼミナール」「ソフトウェア情報学ゼミナールⅢ」を1年次に履修することができます。入学後、当該指導教員の指導のもと、実学実践的教育効果を1年間で得られるよう、ソフトウェア情報学ゼミナールⅠ～Ⅲの進め方と内容を調整する必要があります。

公開ゼミナール

「公開ゼミナール」は、博士前期課程の中心となる「ソフトウェア情報学研究」を補助する目的で開設されるもので、関連論文の輪読、研究の動向の調査及び実社会での問題をテーマとする事例研究の紹介を通じて、専門的知識を一層高めるとともに、公開の場で複数の教員からの研究指導を受けることで研究の方法論等を深めることを目的とします。

ソフトウェア情報学研究

講義科目及びゼミナールにより修得する問題発見から問題解決に至る実践的手法に基づき、現実問題に対する解決方法の提案及びその実現可能性に対する検証等の内容を修士論文としてまとめることを目的としています。

6. 履修指導及び研究指導の方法

《履修指導の方法》

博士前期課程では、基盤情報システム領域にあつては、基盤、情報システム基盤及び情報システムの3モデル、知能メディアシステム領域にあつては、知能システム、知能メディアシステム及びメディアシステムの3モデル、合計6つの履修モデルを設定し、この履修モデルを前提として学生の希望、将来の進路、適性などを考慮し、履修指導を行います。

具体的には、入学後、直ちにオリエンテーションを開催し、学生の希望する教育研究領域、研究対象及び指導教員を十分考慮し、3名以上の指導教員が指名され、当該指導教員の指導のもとに、研究対象に沿った授業科目を履修します。

《研究指導の方法》

学生は、指導教員が指名された後、主指導教員の研究室に配属され、これ以後は指導教員の指導の下に研究を進めることになります。

1年次においては、指導教員の指導の下に「ソフトウェア情報学ゼミナールⅠ」及び「ソフトウェア情報学ゼミナールⅡ」を行います。2年次の始めには修士論文、または、後述の特定課題研究の主題設定を行うこととなりますが、この主題設定にあたっては、問題調査から主題設定に至る一連の過程等について、指導教員の指導を受けることになります。また、「公開ゼミナール」により公開の場で複数の指導教員からの研究指導を受けます。実社会の問題の把握については実践科目群で扱いますが、研究を進める上での問題把握は、指導教員の指導の下に行います。また、指導教員の指導の下に修士論文の作成を行います。修士論文の主題は、一般的に実践科目群で取り組む主題とは別ですが、実践科目群の主題を発展させて修士論文の主題にすることも可能です。

《特定課題研究の指導》

社会人学生などについて、指導教員がソフトウェア実践の観点から必要、かつ、有益であると判断した場合、特定の課題についての研究指導を受けることができます。

特定の課題についての研究成果物は、修士論文に代えることができます。具体的には、次にあげのようなものが研究成果物に該当します。

- (例) ・ソフトウェア情報に関連した創意ある製作された製品、または、試作品の概念設計書
 ・ソフトウェア情報に関連ある公開特許申請

7. 修了要件

博士前期課程の修了要件は、本研究科の博士前期課程に2年以上在学し、専門科目 14単位以上、実践科目 1 単位以上、研究指導科目15 単位の合計 30 単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び修了試験に合格することです。

ただし、在学期間については、研究科において優れた研究業績を上げたと認められた者については、1年以上在学すれば足りるものとします。また、社会人学生にあつては、修士論文または特定課題研究の内容が実社会の問題に強く関連しておれば「ソフトウェア実践演習」の単位が認定されます。

区 分	配当 単位数	修了要件単位数		
		必 修	選 択	計
専 門 科 目	72		14	14
実 践 科 目	2		1	1
研究指導科目	15	15		15
合 計	89	15	15	30

Ⅱ ソフトウェア情報学研究科 博士後期課程の概要

博士後期課程

1. 概要

博士後期課程では、博士前期課程における問題発見能力の修得や現状の問題解決の実践を踏まえ、実学実践の方式による「特別ゼミナール」、「特別公開ゼミナール」及び「ソフトウェア情報学特別研究」による研究指導を通じ、実践を背景とした原理への問題提起及び新原理の探求を行います。

2. 研究領域

博士後期課程での教育研究領域は、博士前期課程と同様に基盤情報システムと知能メディアシステムの2領域で構成されており、各領域の内容は次のとおりです。

《基盤情報システム領域》

計算処理メカニズムを主体とするソフトウェア情報学の基盤要素と、その基盤要素を企業や社会に適用する情報システムにおける手法などに関する研究領域

《知能メディアシステム領域》

知能及び知識処理を主体とするソフトウェア情報学の基盤要素と、その基盤要素をメディア情報システムに適用し、より高度なメディア情報システムを構築することに関する研究領域

3. 教育研究目標

博士後期課程においては、実学・実践的学問展開を重視し、博士前期課程で修得した現状問題の発見から問題解決に至る一連の手法をもとに、実践を背景とした原理への問題提起を行い、新原理の探求を行いうる高度な実践的研究者及び技術者の養成を目指しています。

4. ディプロマ・ポリシー(DP)、カリキュラム・ポリシー(CP)

■ 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

ソフトウェア情報学研究科では、本学の建学の理念、教育の特色、教育研究上の目的を踏まえ、自身の専門性を活かし、真に利用者の立場から情報技術・システムを企画・設計・開発・保守・運用できる高い志と学識を持つ人材、そして国際的な視野で通用する独創性を備えた人材の育成を図り、本学学則に定める修了要件を満たした学生を、次に掲げる「学生が修了までに身につけるべき能力」を備えたものとして、博士後期課程においては学位『博士(ソフトウェア情報学)』を授与します。

《修了までに身につけるべき能力》

- DP1. 自身の適性や能力を的確に把握し、意欲的かつ計画的に学習・研究を継続し、新しい情報技術・システムを創造することができる。
- DP2. 情報技術分野に対する情熱を持ち、人間や社会に及ぼす様々な影響や効果を判断し、技術者または研究者としての責任を感じることができる。
- DP3. 利用者の立場から、本質的な問題・課題を見出し、適切な解決方法を導き出し、問題・課題を解決することができる。
- DP4. 技術者・研究者の立場から、情報技術・システムの幅広い知識とスキル、そして自身の専門分野における学識を活用し、様々な問題・課題に適した仕組みを企画・設計・開発・保守・運用することができる。
- DP5. 国際的な視野に立ち、自身の見解を分かりやすく表現できるとともに、他者の意見を受け入れ論理的な議論を交わすことができる。
- DP6. 博士後期課程修了時には、上記各項目のより高度な能力を修得し、情報技術・システムの新しい分野を創造することができる。また、社会の要請や自身の志のもとに実施する活動を通して「人に優しい情報化社会」の実現に寄与できる。

■ 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

ソフトウェア情報学研究科では、「人に優しい情報化社会」の実現に寄与する人材を育成するため、専門教育と人間教育を一体化した実学・実践の教育・研究を実施します。

博士後期課程では、原理への問題提起や新原理の探求を行いうる研究者や技術者を養成する観点から、博士前期課程に比べ、より自立的な研究能力を養うことに重点を置いています。このため、博士後期課程では単位制の授業科目を置かず、実学実践の方針による研究指導科目を設けています。

博士前期課程と同様、複数教員による多様な価値観に基づく客観的な研究指導を実施し、研究者としてのより高度な能力を修得するとともに、社会の要請や自身の志を礎として情報技術・システムの新しい分野を創造し得る能力を養います。

5. 教育課程の内容・特色

博士後期課程の教育課程では、原理の問題提起や新原理の探究を行いうる高度な実践的研究者や技術者を養成する観点から、博士前期課程に比べ、より自立的な研究能力を養うことに重点を置いています。

このため、本課程では、単位制の授業科目を置かず、実学実践の方針による研究指導科目6科目(「ソフトウェア実践特別演習」、「プロジェクト実践特別演習」、「特別公開ゼミナールⅠ」、「特別公開ゼミナールⅡ」、「特別ゼミナール」、「ソフトウェア情報学特別研究」)を設けています。

なお、ソフトウェア情報学以外の分野からの入学生について、必要がある場合は、指導教員の指導の下に、博士前期課程で開講する講義科目を受講することができます。

《ソフトウェア実践特別演習》

「ソフトウェア実践特別演習」は、実際にソフトウェアシステムなどを構築する際の様々な問題の中から、体系的かつ効果的に問題解決を実践し、問題解決の実践方法を修得しようとするもので、具体的には、実社会での問題をテーマとする事例研究を行います。事例研究を行うために学生が企業の現場に参加することもあります。また、問題を学内へ持ち帰って研究することもあります。

《プロジェクト実践特別演習》

「プロジェクト実践特別演習」は、学生が自主的にチームを作り、自主的に目標、開発仕様、工程計画などを設定する制作プロジェクトの実践科目です。プロジェクトを実施するには計画書を教員へ提出し、承認を受ける必要があります。物品費用を申請し、教員の査定を受けて予算として与えられます。単位認定を受けるためには代表者、又は、副代表者として、プロジェクトを実施し、成果発表会で発表を行い、成果報告書が教員に承認される必要があります。

《特別公開ゼミナール》

「特別公開ゼミナールⅠ、Ⅱ」は、博士後期課程の中心となる「ソフトウェア情報学特別研究」を補助する目的で開設されるもので、関連論文の輪読、研究の動向の調査及び実社会での問題をテーマとする事例研究の紹介を通じて、専門的知識を一層高めるとともに、公開の場で複数の教員からの研究指導を受けることで研究の方法論等を深めることを目的とします。

《特別ゼミナール》

「特別ゼミナール」は、博士後期課程の中心となる「ソフトウェア情報学特別研究」を補助する目的で開設されるもので、関連論文の輪読、実践科目群から得た知見等を通じて、専門的知識を一層高めるとともに、研究の方法論等を深めることを目的とします。

《ソフトウェア情報学特別研究》

本研究科における研究指導は、ソフトウェア情報学の発展や実学・実践の学問展開を目指します。その観点から博士論文作成のための研究指導を行う目的で開設しています。

具体的には、指導教員との討論、議論等を通じて、研究テーマの選定、研究の進め方、研究計画、研究評価、学会等での発表計画、論文の構成等に対する綿密な指導を行い、研究能力を高めるものです。

6. 研究指導の方法

入学後、直ちにオリエンテーションを開催し、学生の希望する教育研究領域、研究対象及び指導教員を十分考慮し、3名以上の指導教員が指名されます。学生は、当該指導教員の研究室に配属され、以後は指導教員の指導を受け、学習・研究を進めます。

1年次では、学生の研究対象に沿った研究課題調査の指導が行われ、指導教員の指導の下に、研究課題調査を行い、問題提起能力を養います。

2年次始めにおいては、1年次での研究課題調査を踏まえて、指導教員の指導の下に博士論文の主題設定を行います。

2年次、3年次では、指導教員の指導の下に、「ソフトウェア情報学特別研究」での問題提起、新原理の探究の実践を通じて、博士論文の作成を行います。また、「特別公開ゼミナール I、II」を通して公開の場で複数の指導教員からの研究指導を受けます。「ソフトウェア情報学特別研究」を行うにあたって、必要かつ、有益であると認められる場合は、指導教員の指導の下に、企業等他の研究施設に派遣することがあります。

7. 修了要件

博士後期課程の修了要件は、本研究科の博士後期課程に3年以上在学し、「ソフトウェア実践特別演習」または「プロジェクト実践特別演習」のいずれかと「特別公開ゼミナール I」、「特別公開ゼミナール II」の単位を取得し、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び修了試験に合格しなければいけません。

ただし、在学期間については、研究科において優れた研究業績を上げたと認められた者については1年(2年未満の在学期間をもって、博士前期課程を修了した者にあつては、当該在学期間を含めて3年)以上在学すれば足りるものとします。また、論文の主題が実社会での問題に強く関連したものであれば、「ソフトウェア実践特別演習」の単位を認定します。

区 分	配当 単位数	修了要件単位数		
		必 修	選 択	計
実 践 科 目	4		2	2
研究指導科目	12	12		12
合 計	16	12	2	14

Ⅲ 教育研究領域

1 授業科目一覧表

授業科目の名称		配当年次	単位数または時間数			GPA 対象	修了要件
			必修	選択	自由		
ソフトウェア情報学研究科 ソフトウェア情報学専攻 博士前期課程							30単位以上 専門科目14単位以上、 実践科目1単位以上、研 究指導科目15単位を修 得し、かつ、修士論文 (または研究成果物)の 審査及び修了試験に合 格すること。
専 門 科 目	高速処理特論	1前		2		○	
	高性能計算特論	1後		2		○	
	プログラム言語特論	1前		2		○	
	基盤情報特論	1前		2		○	
	ソフトウェア設計特論	1前		2		○	
	情報システム企画・設計特論	1前		2		○	
	情報セキュリティ特論Ⅰ	1前		2		○	
	情報セキュリティ特論Ⅱ	1前		2		○	
	情報セキュリティ特論Ⅲ	1後		2		○	
	知識基礎特論	1前		2		○	
	知能システム特論	1前		2		○	
	知的設計特論Ⅰ	1前		2		○	
	知的設計特論Ⅱ	1前		2		○	
	認知情報特論	1前		2		○	
	知能メディア総論	1前		2		○	
	コンピュータグラフィックス特論	1前		2		○	
	情報環境デザイン特論	1前		2		○	
	知覚情報処理特論	1前		2		○	
	ソフトウェア実践特論	1前		2		○	
	基盤ソフトウェア特論	1後		2		○	
	基盤構築特論	1後		2		○	
	情報システム評価特論	1後		2		○	
	情報ネットワーク特論Ⅰ	1後		2		○	
	情報ネットワーク特論Ⅱ	1後		2		○	
	情報ネットワーク特論Ⅲ	1前		2		○	
	情報システム基盤総論	1後		2		○	
	企業情報システム特論	1後		2		○	
	社会情報システム特論Ⅰ	1後		2		○	
	社会情報システム特論Ⅱ	1後		2		○	
	組織システム分析特論Ⅰ	1前		2		○	
組織システム分析特論Ⅱ	1後		2		○		
情報システム管理特論	1後		2		○		
知識処理特論	1後		2		○		
感性情報特論	1後		2		○		
知能システム開発特論	1後		2		○		
コンピュータビジョン特論	1後		2		○		
実践科目	ソフトウェア実践演習	1前・後		1			
	プロジェクト実践演習	1前・後		1			
研 究 指 導 科 目	公開ゼミナール	2前・後	1				
	ソフトウェア情報学ゼミナールⅠ	1前・後	2				
	ソフトウェア情報学ゼミナールⅡ	1前・後	2				
	ソフトウェア情報学ゼミナールⅢ	2前・後	2				
	ソフトウェア情報学研究	2	8				
ソフトウェア情報学研究科 ソフトウェア情報学専攻 博士後期課程							実践科目から2単位と、 研究指導科目12単位を 修得すると共に、博士論 文の審査及び修了試験 に合格すること。
実 践 科 目	ソフトウェア実践特別演習	1前・後		2			
	プロジェクト実践特別演習	1前・後		2			
研 究 指 導 科 目	特別公開ゼミナールⅠ	2前・後	1				
	特別公開ゼミナールⅡ	3前・後	1				
	特別ゼミナール	1～3	2				
	ソフトウェア情報学特別研究	1～3	8				

2 研究室及び教育研究領域

領域	講座	教員	主な教育研究領域
基盤情報システム領域	コンピュータアーキテクチャ学	教授 佐藤 裕 幸 准教授 蔡 大 維 助教 片 町 健 太 郎	並列プログラム、ベクトル化技法、オペレーティングシステム、
	データベースシステム学	教授 村 田 嘉 利 講師 佐 藤 永 欣 講師 鈴 木 彰 真	データベース技術、情報検索技術等
	リアルタイムシステム学	教授 猪 股 俊 光 准教授 新 井 義 和 准教授 今 井 信 太 郎	組込みシステム、高信頼性ソフトウェア、システムの最適化等
	基盤ソフトウェア学	教授 猪 股 俊 光 (NEE) 講師 杉 野 栄 二 講師 成 田 匡 輝	ユビキタス/モバイル/ウェブコンピューティング、ソフトウェアアーキテクチャ、オープンソースソフトウェア、並列ソフトウェア、ヒューマンインタフェース等
	言語情報学	教授 高 田 豊 雄 准教授 Bhed Bahadur Bista 講師 小 倉 加 奈 代	ネットワークセキュリティ、モバイルワイヤレスネットワーク、ワイヤレスセンサネットワーク、プロトコルの安全性、アプリケーションレイヤネットワーク、ウェブシステム、セマンティックウェブ、マルチエージェントシステム、データマイニング、センサーネットワーク、分散処理技術
	分散システム学	教授 王 家 宏 講師 児 玉 英 一 郎	
	ソフトウェア設計学	准教授 堀 川 三 好 准教授 岡 本 東	企業情報システムの分析、構築、管理等
	経営情報システム学	教授 竹 野 健 夫 准教授 植 竹 俊 文	
	社会情報システム学	教授 阿 部 昭 博 准教授 市 川 尚 講師 富 澤 浩 樹	地域情報システムの分析・設計、開発・評価等
	情報システム構築学	教授 佐々木 淳 准教授 高 木 正 則 講師 山 田 敬 三	ソフトウェア設計、ソフトウェア開発プロセス等
	組織情報システム学	教授 渡 邊 慶 和 准教授 後 藤 裕 介 講師 南 野 謙 一	情報システムの適用形態、システム分析等
知能メディアシステム領域	ビジュアライゼーション学	教授 土 井 章 男	情報可視化、3次元画像処理、コンピュータグラフィックス等
	情報環境デザイン学	教授 橋 本 浩 二 准教授 戴 瑩	知的マルチメディア通信ネットワーク、バーチャルリアリティとテレマージョン、災害情報ネットワーク、感性情報処理
	ヒューマンインタフェース学	准教授 Prima Oky Dicky A. 講師 伊 藤 久 祥	音声・画像情報処理、人とコンピュータのコミュニケーション技術等
	コンピュータグラフィックス学	教授 亀 田 昌 志 准教授 松 田 浩 一 講師 塚 田 義 典	「わざ・技能」の可視化、デジタル映像処理、ヒューマンインタフェース、画像センシング等
	コミュニケーション学	准教授 齊 藤 義 仰 講師 西 岡 大	インターネット技術とそれを利用した協調支援及びネットワークセキュリティ等
	情報メディア学	教授 布 川 博 士 講師 佐 藤 究	情報環境利用、ヒューマンインタフェース、メディアのプログラム等
	感性情報学	教授 伊 藤 慶 明 講師 小 嶋 和 徳	文字、画像、ビデオ、音声、音情報を対象とした特徴抽出技術、学習・認識アルゴリズム等
	知識情報学	教授 Goutam Chakraborty 教授 馬 淵 浩 司 准教授 松 原 雅 文	知的情報処理及び基礎知識処理等
	認知科学と物語生成システム学	教授 小 方 孝 准教授 David Ramamonjisoa	物語生成システム、情報・人文学際研究の開拓、人工知能(自然言語解析・生成、ニューラルネットワーク、GA、認知科学、哲学的基礎等)、コンテンツビジネス等
	パターン認識と機械学習	教授 Basabi Chakraborty	パターン認識、データマイニング、時系列データ分析、解析等
	インテリジェントソフトウェアシステム学	教授 藤 田 ハミド 准教授 羽 倉 淳 准教授 樽 松 理 樹	分散知識処理及びマルチエージェントシステム、ソフトウェアシステム及びソフトウェア開発手法に関する研究等

3 履修モデル

(基盤情報システム領域)

履修モデル	授業科目の名称	配当年次	単位数または時間数		備考
			必修	選択	
基盤	高速処理特論	1前		2	コンピュータアーキテクチャ学講座 基盤ソフトウェア学講座 データベースシステム学講座 ソフトウェア設計学講座 経営情報システム学講座 社会情報システム学講座 リアルタイムシステム学講座 言語情報学講座 分散システム学講座 情報システム構築学講座 組織情報システム学講座
	プログラム言語特論	1前		2	
	基盤情報特論	1前		2	
	ソフトウェア設計特論	1前		2	
	基盤ソフトウェア特論	1後		2	
	基盤構築特論	1後		2	
	基盤システム評価特論	1後		2	
	情報ネットワーク特論Ⅰ	1後		2	
	情報ネットワーク特論Ⅱ	1後		2	
	情報ネットワーク特論Ⅲ	1前		2	
	ソフトウェア実践演習	1前・後		1	
	プロジェクト実践演習	1前・後		1	
	公開ゼミナール	2前・後	1		
	ソフトウェア情報学ゼミナールⅠ	1前・後	2		
	ソフトウェア情報学ゼミナールⅡ	1後・後	2		
ソフトウェア情報学ゼミナールⅢ	2前・後	2			
ソフトウェア情報学研究	2	8			
情報システム基盤	プログラム言語特論	1前		2	
	基盤情報特論	1前		2	
	ソフトウェア設計特論	1前		2	
	情報システム企画・設計特論	1前		2	
	ソフトウェア実践特論	1前		2	
	基盤ソフトウェア特論	1後		2	
	情報システム評価特論	1後		2	
	情報ネットワーク特論Ⅰ	1後		2	
	情報ネットワーク特論Ⅱ	1後		2	
	情報ネットワーク特論Ⅲ	1前		2	
	情報システム基盤総論	1後		2	
	ソフトウェア実践演習	1前・後		1	
	プロジェクト実践演習	1前・後		1	
	公開ゼミナール	2前・後	1		
	ソフトウェア情報学ゼミナールⅠ	1前・後	2		
ソフトウェア情報学ゼミナールⅡ	1前・後	2			
ソフトウェア情報学ゼミナールⅢ	2前・後	2			
ソフトウェア情報学研究	2	8			
情報システム	基盤情報特論	1前		2	
	ソフトウェア設計特論	1前		2	
	情報システム企画・設計特論	1前		2	
	情報セキュリティ特論Ⅰ	1前		2	
	情報セキュリティ特論Ⅱ	1前		2	
	情報セキュリティ特論Ⅲ	1後		2	
	情報システム評価特論	1後		2	
	企業情報システム特論	1後		2	
	社会情報システム特論Ⅰ	1後		2	
	社会情報システム特論Ⅱ	1後		2	
	組織システム分析特論Ⅰ	1前		2	
	組織システム分析特論Ⅱ	1後		2	
	情報システム管理特論	1後		2	
	ソフトウェア実践演習	1前・後		1	
	プロジェクト実践演習	1前・後		1	
	公開ゼミナール	2前・後	1		
	ソフトウェア情報学ゼミナールⅠ	1前・後	2		
	ソフトウェア情報学ゼミナールⅡ	1前・後	2		
ソフトウェア情報学ゼミナールⅢ	2前・後	2			
ソフトウェア情報学研究	2	8			

(知能メディアシステム領域)

履修モデル	授業科目の名称	配当年次	単位数または時間数		備考
			必修	選択	
知能システム	知識基礎特論	1前		2	
	知能システム特論	1前		2	感性情報学講座
	知的設計特論Ⅰ	1前		2	ヒューマンインターフェース学講座
	知的設計特論Ⅱ	1前		2	知識情報学講座
	認知情報特論	1前		2	情報環境デザイン学講座
	知能メディア総論	1前		2	コンピュータグラフィックス学講座
	情報ネットワーク特論Ⅰ	1後		2	情報メディア学講座
	情報ネットワーク特論Ⅱ	1後		2	インテリジェントソフトウェアシステム学講座
	情報ネットワーク特論Ⅲ	1前		2	認知科学と物語生成システム学講座
	知識処理特論	1後		2	
	感性情報特論	1後		2	パターン認識と機械学習講座
	ソフトウェア実践演習	1前・後		1	コミュニケーション学講座
	プロジェクト実践演習	1前・後		1	ビジュアルライゼーション学講座
	公開ゼミナール	2前・後	1		
	ソフトウェア情報学ゼミナールⅠ	1前・後	2		
	ソフトウェア情報学ゼミナールⅡ	1前・後	2		
ソフトウェア情報学ゼミナールⅢ	2前・後	2			
ソフトウェア情報学研究	2	8			
知能メディアシステム	知識基礎特論	1前		2	
	知能システム特論	1前		2	
	知能メディア総論	1前		2	
	コンピュータグラフィックス特論	1前		2	
	ソフトウェア実践特論	1前		2	
	情報ネットワーク特論Ⅰ	1後		2	
	情報ネットワーク特論Ⅱ	1後		2	
	情報ネットワーク特論Ⅲ	1前		2	
	知識処理特論	1後		2	
	知能システム開発特論	1後		2	
	ソフトウェア実践演習	1前・後		1	
	プロジェクト実践演習	1前・後		1	
	公開ゼミナール	2前・後	1		
	ソフトウェア情報学ゼミナールⅠ	1前・後	2		
	ソフトウェア情報学ゼミナールⅡ	1前・後	2		
	ソフトウェア情報学ゼミナールⅢ	2前・後	2		
ソフトウェア情報学研究	2	8			
メディアシステム	情報セキュリティ特論Ⅰ	1前		2	
	情報セキュリティ特論Ⅱ	1前		2	
	情報セキュリティ特論Ⅲ	1後		2	
	知能メディア総論	1前		2	
	コンピュータグラフィックス特論	1前		2	
	コンピュータビジョン特論	1後		2	
	情報環境デザイン特論	1前		2	
	知覚情報処理特論	1前		2	
	情報ネットワーク特論Ⅰ	1後		2	
	情報ネットワーク特論Ⅱ	1後		2	
	情報ネットワーク特論Ⅲ	1前		2	
	感性情報特論	1後		2	
	ソフトウェア実践演習	1前・後		1	
	プロジェクト実践演習	1前・後		1	
	公開ゼミナール	2前・後	1		
	ソフトウェア情報学ゼミナールⅠ	1前・後	2		
ソフトウェア情報学ゼミナールⅡ	1前・後	2			
ソフトウェア情報学ゼミナールⅢ	2前・後	2			
ソフトウェア情報学研究	2	8			

IV 高等学校教諭専修免許状（情報）取得課程

高等学校教諭専修免許状(情報)取得課程

1. 専修免許状取得要件

高等学校教諭一種免許状(情報)を取得していることが要件となります。「修士の学位を有すること」が専修免許状取得の基礎資格とされています。

2. 教職課程科目一覧

指定された次の授業科目のうちから、必修科目 7 単位、選択科目 17 単位以上を修得してください。

教育職員免許法施行規則 に定める科目区分	授業科目の名称	単位数		備 考
		必修	選択	
情報の教科に関する科目	情報セキュリティ特論 I		2	16単位以上選択 必修
	高速処理特論		2	
	プログラム言語特論		2	
	基盤情報特論		2	
	基盤構築特論		2	
	情報システム基盤総論		2	
	情報システム企画・設計特論		2	
	情報システム評価特論		2	
	社会情報システム特論 I		2	
	社会情報システム特論 II		2	
	組織システム分析特論 I		2	
	組織システム分析特論 II		2	
	情報システム管理特論		2	
	情報ネットワーク特論 I		2	
	情報ネットワーク特論 II		2	
	情報ネットワーク特論 III		2	
	知能メディア総論		2	
	コンピュータグラフィックス特論		2	
	情報環境デザイン特論		2	
	ソフトウェア実践演習		1	1単位選択必修
	プロジェクト実践演習		1	
	公開ゼミナール	1		
	ソフトウェア情報学ゼミナール I	2		
ソフトウェア情報学ゼミナール II	2			
ソフトウェア情報学ゼミナール III	2			

V 学 位 论 文

1 修士論文

修士論文の審査は、予備審査と学位審査に分けられます。いずれも、研究科委員会において選出された委員で組織された論文審査委員会において審査が行われます。

1. 予備審査

博士前期課程の修了に必要な単位を修得した者、または修得見込の者で、十分な研究成果が得られ、修士論文の完成が見込まれた場合、指導教員の承認を得て、予備審査を申し出ることができます。

2. 学位審査

予備審査の結果、修士論文として提出可能と認められ、指導教員による必要な研究指導が修了した学生は、一定の期日までに修士論文を提出し、論文審査委員会の審査を受けなければなりません。

また、指導教員の判断により在学中に発表したソフトウェア情報に関連した製作物、特許出願などが修士論文と同等とみなされる場合は、修士論文の代わりにそれを提出することができます。

3. 審査基準

修士学位論文は、主査と副査が以下の観点から総合的に評価する。

1. テーマの妥当性・有効性(研究領域に関する問題にとりくんでいるか、実学実践の観点から問題をとらえているか)
2. テーマの新規性(問題解決方法の提案を行っているか、新たな知見を含んでいるか)
3. 手法の信頼性(問題に対し適切な手法を用いているか)
4. 内容の信頼性(システムの実現可能性に対する検証を行っているか、評価は適切か)
5. 論理の構成(結論まで首尾一貫した論旨になっているか)
6. 論文の形式・体裁(語句・文章表現は論文として適切か、論文の体裁は整っているか、参考文献や引用図表は正しく引用され、その引用元が明記されているか)

2 博士論文

博士論文の審査は、予備審査と学位審査に分けられます。いずれも、研究科委員会において選出された委員で組織された論文審査委員会において審査が行われます。

1. 予備審査

博士後期課程の修了に必要な単位を修得した者、または修得見込の者で、十分な研究成果が得られ、博士論文の完成が見込まれた場合、指導教員の承認を得て、予備審査を申し出ることができます。

2. 学位審査

予備審査の結果、博士論文として提出可能と認められた場合は、指導教員の指導の下に博士論文を完成させ、一定の期日までに学位審査を申し出ることになります。論文審査と公開の審査会の結果、博士論文にふさわしいと判定された場合、学位が授与されることになります。

なお、公開の審査会では、企業の研究に関する責任者など他の研究施設等の責任ある立場にある者から参考意見を聴取することがあります。

3. 審査基準

博士学位論文は、主査と副査が以下の観点から総合的に評価する。

1. テーマの妥当性・有効性(研究領域に関する問題にとりくんでいるか、原理への問題提起や新原理の探求を含むか、研究領域における学問の視点から検証しているか)
2. テーマの新規性(問題解決方法の提案を行っているか、独創性があるか)
3. 手法の信頼性(問題に対し適切な手法を用いているか)
4. 内容の信頼性(システムの実現可能性に対する検証を行っているか、評価は適切か)
5. 論理の構成(結論まで首尾一貫した論旨になっているか)
6. 論文の形式・体裁(語句・文章表現は論文として適切か、論文の体裁は整っているか、参考文献や引用図表は正しく引用され、その引用元が明記されているか)

3 審査日程及び提出書類等

審査日程及び提出書類等は、次のとおりです。各提出書類の作成及び発表会、審査会の形式については、指導教員の指示に従ってください。なお、審査日程の詳細は、別途お知らせいたします。

【博士前期課程】

博士前期課程

区 分	提出書類等	提出部数等	留 意 事 項	時 期	
				春季修了	秋季修了
論文題目	論文題目届(様式2)	1部	<ul style="list-style-type: none"> ・主指導教員の承認印が必要である。 ・日本語及び英語により記載すること。 ・届出後、論文題目の変更を行った場合は、「論文題目変更届(様式2-2)」を提出すること。 	10月上旬	4月中旬
	チェックシート(様式10-2)	1部	<ul style="list-style-type: none"> ・チェック項目を全て確認し、提出者欄へ凡例にしたがって記入すること。 ・学籍番号、氏名、日付他記入できる項目は全て記入の上提出すること。 		
予備審査申請	論文予備審査申請書(様式3)	1部	<ul style="list-style-type: none"> ・主指導教員の承認印が必要である。 		
	学位論文要旨(様式4)	論文予備審査員の人数分の部数	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語又は英語により記載すること。 ・字数及び頁数の指定無し。 	11月上旬	5月上旬
	業績一覧及び別刷り資料		<ul style="list-style-type: none"> ・業績一覧(研究科指定様式)には、業績、論文発表状況、その他参考となる事項を記載し、主たる論文等の別刷り資料を添付すること。 ・学会発表等を申請日以降に予定している場合は、発表予定日及びそれを証明する書類(プログラム等)の写しを添付すること。 		
	チェックシート(様式10-3)	1部	<ul style="list-style-type: none"> ・チェック項目を全て確認し、提出者欄へ凡例にしたがって記入すること。 ・学籍番号、氏名、日付他記入できる項目は全て記入の上提出すること。 		
論文予備審査会		<ul style="list-style-type: none"> ・日時、会場及び審査方法等については、各論文審査委員会からの指示に従うこと。 	11月下旬	5月下旬	
学位申請	学位申請書(様式5)	1部	<ul style="list-style-type: none"> ・主指導教員の承認印が必要である。 		
	修士論文(1次)	論文審査員の人数分の部数	<ul style="list-style-type: none"> ・仮綴じでの提出も可とする。 ・日本語又は英語により記載すること。 ・構成、形式等の詳細については、別添の記載方法によること。 	1月上旬	7月上旬
	学位論文要旨(様式4)		<ul style="list-style-type: none"> ・日本語又は英語により記載すること。 ・字数及び頁数の指定無し。 		
	業績一覧及び別刷り資料		<ul style="list-style-type: none"> ・業績一覧(研究科指定様式)には、業績、論文発表状況、その他参考となる事項を記載し、主たる論文等の別刷り資料を添付すること。 ・学会発表等を申請日以降に予定している場合は、発表予定日及びそれを証明する書類(プログラム等)の写しを添付すること。 		
	チェックシート(様式10-4)	1部	<ul style="list-style-type: none"> ・チェック項目を全て確認し、提出者欄へ凡例にしたがって記入すること。 ・学籍番号、氏名、日付他記入できる項目は全て記入の上提出すること。 		
	本審査会		原則として研究科内合同で行う。日時・会場及び審査方法等については、別途指示する。	2月中旬	8月上旬
修士論文(最終版)	2部	<ul style="list-style-type: none"> ・後日配布するフォルダに綴じて提出すること。 ・提出用フォルダの配布方法については、別途指示する。 ・提出された学位論文等は返還しない。 	3月中旬	9月中旬	
学位授与				3月中旬	9月末日
提出先等			<ul style="list-style-type: none"> ・各種提出物の提出先は、学生センター(本部棟1階)とする。 ・各種提出物の提出方法は、学生センターへの持参又は郵送によること。 ・学生センターの受付時間内の提出とする。この時間以外の受付は原則として行わない。 ・郵送により提出する場合は、提出期限日必着とすること。 ・提出期限内の提出であっても提出物に明らかな不備がある場合は、受け付けない場合がある。 ・特別の理由があつて提出物の提出が遅れた場合には、必ず事由書(様式11)を添付すること。 		

【博士後期課程】

博士後期課程

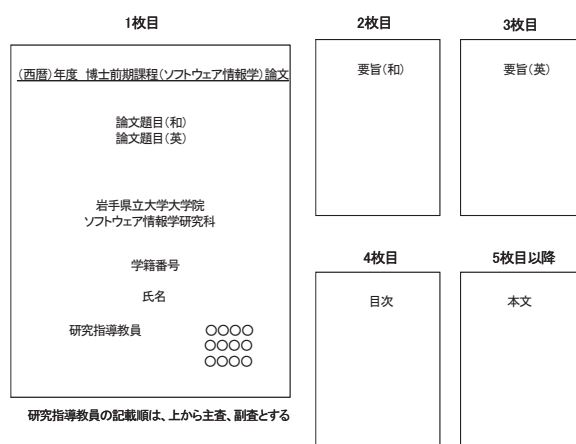
区 分	提出書類等	提出部数等	留 意 事 項	時 期	
				春季修了	秋季修了
論文題目	論文題目届(様式2)	1部	<ul style="list-style-type: none"> ・主指導教員の承認印が必要。 ・日本語及び英語により記載すること。 ・届出後に論文題目の変更を行う場合は、「論文題目変更届(様式2-2)」を提出すること。 	10月上旬	4月中旬
	チェックシート(様式10-2)	1部	<ul style="list-style-type: none"> ・チェック項目を全て確認し、提出者欄へ凡例にしたがって記入すること。 ・学籍番号、氏名、日付他記入できる項目は全て記入の上提出すること。 		
予備審査申請	論文予備審査申請書(様式3)	1部	<ul style="list-style-type: none"> ・主指導教員の承認印が必要。 	11月上旬	5月上旬
	博士論文(1次)	各論文予備審査委員の人数分の部数	<ul style="list-style-type: none"> ・仮綴じでの提出も可とする。 ・日本語又は英語により記載すること。 ・構成、形式等の詳細については、別紙記載方法によること。 		
	学位論文要旨(様式4)		<ul style="list-style-type: none"> ・日本語及び英語により記載すること。 ・字数及び頁数の指定無し。 		
	業績一覧及び別刷り資料		<ul style="list-style-type: none"> ・業績一覧(研究科指定様式)には、業績、論文発表状況、その他参考となる事項を記載するとともに、主たる論文等の別刷り資料を添付すること。 ・学術論文等は筆頭著者となっているものについて記載すること。 ・論文掲載が決定しているものの印刷公表されていない場合は、掲載決定を証明する書類(採録通知等)の写しを添付すること。 		
	承諾書(様式6)	<ul style="list-style-type: none"> ・査読付き論文、国際ジャーナルへの発表論文について、共著者がいる場合に添付すること。 ・承諾書を添付する際は、論文予備審査申請書の提出書類記載欄に追加して記載すること。 			
	チェックシート(様式10-5)	1部	<ul style="list-style-type: none"> ・チェック項目を全て確認し、提出者欄へ凡例にしたがって記入すること。 ・学籍番号、氏名、日付他記入できる項目は全て記入の上提出すること。 		
論文予備審査会		<ul style="list-style-type: none"> ・各論文予備審査委員会から提出を求められた資料等があれば添付すること。 ・資料等を添付する際は、論文予備審査申請書の提出書類記載欄に追加して記載すること。 	11月下旬	5月下旬	
学位申請	学位申請書(様式5)	1部	<ul style="list-style-type: none"> ・主指導教員の承認印が必要 	1月中旬	7月上旬
	博士論文(2次)	各論文審査委員の人数分の部数	<ul style="list-style-type: none"> ・仮綴じでの提出も可とする。 ・日本語又は英語により記載すること。 ・構成、形式等の詳細については、別紙記載方法によること。 		
	学位論文要旨(様式4)		<ul style="list-style-type: none"> ・日本語及び英語により記載すること。 ・字数及び頁数の指定無し。 		
	業績一覧及び別刷り資料		<ul style="list-style-type: none"> ・業績一覧(研究科指定様式)には、業績、論文発表状況、その他参考となる事項を記載するとともに、主たる論文等の別刷り資料を添付すること。 ・学術論文等は筆頭著者となっているものについて記載すること。 ・論文掲載が決定しているものの印刷公表されていない場合は、掲載決定を証明する書類(採録通知等)の写しを添付すること。 		
	承諾書(様式6)	<ul style="list-style-type: none"> ・査読付き論文、国際ジャーナルへの発表論文について、共著者がいる場合に添付すること。 ・承諾書を添付する際は、学位申請書の提出書類記載欄に追加して記載すること。 			
	その他提出書類	<ul style="list-style-type: none"> ・各論文審査委員会から提出を求められた資料等があれば添付すること。 ・資料等を添付する際は、学位申請書の提出書類記載欄に追加して記載すること。 			
	チェックシート(様式10-6)	1部	<ul style="list-style-type: none"> ・チェック項目を全て確認し、提出者欄へ凡例にしたがって記入すること。 ・学籍番号、氏名、日付他記入できる項目は全て記入の上提出すること。 		
	本審査会(公開)		原則として研究科内合同で行う。日時・会場及び審査方法等については、別途指示する。		
博士論文(最終版)	1部	<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県立大学博士論文等のインターネットの利用による公表要領に基づいて提出のこと。 ・提出された学位論文等は返還しない。 	3月中旬	9月中旬	
学位授与			3月中旬	9月末日	
提出方法		<ul style="list-style-type: none"> ・各種提出物の提出先は、学生センター(本部棟1階)とする。 ・各種提出物の提出方法は、学生センターへの持参又は郵送によること。 ・学生センターの受付時間の提出とする。この時間以外の受付は原則として行わない。 ・郵送により提出する場合は、提出期限日必着とすること。 ・提出期限内の提出であっても提出物に明らかな不備がある場合は、受け付けない場合がある。 ・特別の理由があつて提出物の提出が遅れた場合には、必ず事由書(様式11)を添付すること。 			

4 学位論文の基本構成

提出する学位論文の構成は、修士論文及び博士論文ともに以下のガイドラインに準拠し、記載してください。形式の詳細については、各指導教員の指示に従い、読みやすさに十分配慮してください。

- A4 シングルコラム、ワープロ使用のこと。
- タイトル等を除き、字の大きさは 10.5Pt 程度、1 行あたり 40 文字程度、1 頁あたり 30 行程度を基本とすること。
- 余白は、上:30mm、下:20mm、左:30mm、右に 20mm程度とすること。
- 要旨は和文、英文ともそれぞれ 1 頁とすること。
- 本文のページ数の制限はなし。
- 図表、プログラムは本文に埋め込んでも、別紙としてもよい。図表にはそれぞれ一連番号を付し、また、それらの内容を示す標題(図の場合は下、表の場合は上)をつけること。文献から引用した図表は、必ず出典を明記すること。
- 文献は、関連(発表)論文、引用文献、参考文献の区別ができるようにして、本文の末尾に掲載し、学会論文誌等の記載方法に従うこと。

▶ 論文本文



5 各種様式

様式 2

岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科 (博士 課程)
学 位 論 文 題 目 届

年 月 日

ソフトウェア情報学研究科 (博士 課程)
学籍番号 _____
氏 名 _____
研究室名 _____

研究題目 (日本語及び英語で記載すること。)

主指導教員氏名



様式 2-2

岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科（博士 課程）
 学 位 論 文 題 目 変 更 届

年 月 日

ソフトウェア情報学研究科(博士 課程)
 学籍番号 _____
 氏 名 _____
 研究室名 _____

研究題目（日本語及び英語で記載すること。）	
変 更 前	
変 更 後	

主指導教員氏名	印
---------	---

様式 3

岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科 (博士 課程)
学位論文予備審査申請書

年 月 日

ソフトウェア情報学研究科長 殿

ソフトウェア情報学研究科(博士 課程)

学籍番号 _____


氏 名 _____

研究室名 _____

修士・博士（ソフトウェア情報学）の学位申請に係る学位論文予備審査について、下記の書類を添えて申請します。

記

学 位 論 文	部
学 位 論 文 要 旨	部
業績一覧及び別刷り資料	各 部
承 諾 書	部

主 指 導 教 員 承 認 印	
--------------------	---

※「学位論文」及び「承諾書」は修士の学位に係る予備審査申請の場合には提出不要。

様式 4 - 1

No. 1

学 位 論 文 要 旨

年 月 日

ソフトウェア情報学研究科(博士 課程)

学籍番号 _____

氏 名 _____

研究室名 _____

1 題目 (日本語及び英語で記載すること)

2 要旨

様式 4-2

(学位論文概要)			No.
学籍番号		氏 名	

様式 5

岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科(博士 課程)
学 位 申 請 書

年 月 日

岩手県立大学学長 殿

ソフトウェア情報学研究科(博士 課程)

学籍番号 _____

氏 名 _____

生年月日 _____ 年 月 日

本 籍 地 _____

研究室名 _____

岩手県立大学学位規程第4条に基づき、下記の書類を添えて申請します。

記

学 位 論 文	部
学 位 論 文 要 旨	部
業績一覧及び別刷り資料	各 部
承 諾 書	部

主指導教員氏名	
---------	---



※「承諾書」は、修士の学位に係る予備審査申請の場合には提出不要。

様式 6

承 諾 書

1 論文題目（外国語の場合は、その和訳を併記すること。）

2 発表の方法及び時期

- ・発表年月 年 月 （発表済、予定）
- ・発表紙名
- ・巻 号 第 卷、第 号
- ・頁 頁～ 頁掲載
- ・著者名

上記の論文を_____氏の学位申請用の主論文として提出することに異議はありません。

平成 年 月 日

共 著 者

氏 名 _____ (印)

_____ (印)

※ 共著者は、署名、捺印すること。
この承諾書は、個人又は連名どちらでも良い。

様式10-2

岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科（博士 課程） (様式10-2)

学位論文題目関連書類提出時チェックシート（兼受領書）

チェック項目	提出者	受領者
0. 提出期限内の提出である。（日付を記入してください） 提出期限 年 月 日 提出日 年 月 日		
1. 提出日が記入されている		
2. 前期・後期課程のいずれかが記入されている		
3. 学籍番号・氏名・研究室名が記入されている		
4. 日本語と英語の両方の研究題目が記入されている。		
5. 主指導教員の氏名が記入されており、主指導教員の押印がある。		
7. 変更前と変更後の研究題目が記入されている。（題目変更届提出時のみ）		

凡例

確認	該当無し
○	—

※本シートは様式2/様式2-2と同時に、必ず、学生センターに提出してください。

※本シートに記入がない場合、及び、記入内容が事実と異なる場合には、学位論文題目届/学位論文題目変更届を一切受理することができません。

学籍番号 _____ 氏名 _____ 様,
(提出者が記入のこと)

(学位論文題目届・学位論文題目変更届) を確かに受領いたしました。

年 月 日

受領印：

様式 10-3

岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科 (博士前期課程) (様式 10-3)
 予備審査申請関連書類提出時チェックシート (兼受領書)

チェック項目	提出者	受領者
0. 提出期限内の提出である。(日付を記入してください) 提出期限 年 月 日 提出日 年 月 日		
1. 学位論文予備審査申請書 (様式 3) に日付, 所属課程, 学籍番号, 氏名, 研究室名, 提出書類の部数が記入されている.		/
2. 学位論文予備審査申請書 (様式 3) に主指導教員の承認印がある.		/
3. 学位論文要旨 (様式 4-1) に日付, 所属課程, 学籍番号, 氏名, 研究室名が記入されている.		/
4. 学位論文要旨 (様式 4-1) に日本語と英語の題目が記入されている.		/
5. 要旨が様式 4-1 に収まらない場合, 別の用紙で様式 4-2 を利用して記入しており, かつ, 様式 4-2 にも, 学籍番号と氏名が記入されている.		/
6. 業績一覧は研究科指定様式を用いており, 必要事項が漏れなく記入されている.		/
7. 主たる論文等の別刷りが添付されている.		/
8. 申請日以降に学会発表等を予定しており, 発表予定日及びそれを証明する書類 (プログラム等) の写しを 2 部添付している.		/
9. これらの書類が右記の順序で添付されており, 各審査員, 教務担当にそのまま配布できるよう部毎にまとめられ, ホチキス等で綴じられている. <u>※下線部に該当する数を記入のこと.</u>	①学位論文要旨 主査 1 名 ②業績一覧 副査 ___ 名 ③別刷り資料 教務担当 2 部	各 1 部

凡例	
確認	該当無し
○	—

※本シートは予備審査申請書類と同時に, 必ず, 学生センターに提出してください.
 ※本シートに記入がない場合, 及び, 記入内容が事実と異なる場合には, 予備審査申請を受理することができません.

学籍番号 _____ 氏 名 _____ 様,
 (提出者が記入のこと)
 予備審査申請書 1 部, 学位論文要旨, 業績一覧及び別刷り資料各 _____ 部を確かに受領いたしました.
 年 月 日
 受領印:

様式 10-4

岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究所 (博士前期課程) (様式 10-4)
学位申請関連書類提出時チェックシート (兼受領書)

チェック項目	提出者	受領者													
0. 提出期限内の提出である。(日付を記入してください) 提出期限 年 月 日 提出日 年 月 日															
1. 学位申請書(様式5)に日付, 所属課程, 学籍番号, 氏名, 生年月日, 本籍地, 研究室名, 提出書類の部数が記入されている。		/													
2. 学位申請書(様式5)に主指導教員の氏名が記入されており、押印がある。		/													
3. 学位論文要旨(様式4-1)に日付, 所属課程, 学籍番号, 氏名, 研究室名が記入されている。		/													
4. 学位論文要旨(様式4-1)に日本語と英語の題目が記入されている。		/													
5. 要旨が様式4-1に収まらない場合, 別の用紙で様式4-2を利用して記入しており, かつ, 様式4-2にも, 学籍番号と氏名が記入されている。		/													
6. 業績一覧は研究科指定様式を用いており, 必要事項が漏れなく記入されている。		/													
7. 主たる論文等の別刷りが添付されている。		/													
8. 申請日以降に学会発表等を予定しており, 発表予定日及びそれを証明する書類(プログラム等)の写しを2部添付している。		/													
9. 査読付き論文, 国際ジャーナルへの発表論文について, 共著者がいる場合, 承諾書(様式6)に全ての共著者の押印を含む必要事項が記載されている。また, 学位申請書(様式5)の提出書類記載欄に承諾書が追記されている。		/													
10. これらの書類が右記の順序で添付されており, 各審査員, 教務担当にそのまま配布できるよう部毎にまとめられ, ホチキス等で綴じられている。 <u>※下線部に該当する数を記入のこと。</u>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">①修士論文</td> <td style="width: 20%;">主査 1名</td> <td rowspan="2" style="width: 10%; text-align: center;">} 各1部</td> </tr> <tr> <td>②承諾書</td> <td>副査 ___名</td> </tr> <tr> <td>③学位論文要旨</td> <td>主査 1名</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">} 各1部</td> </tr> <tr> <td>④業績一覧</td> <td>副査 ___名</td> </tr> <tr> <td>⑤別刷り資料</td> <td>教務担当</td> <td style="text-align: center;">2部</td> </tr> </table>	①修士論文	主査 1名	} 各1部	②承諾書	副査 ___名	③学位論文要旨	主査 1名	} 各1部	④業績一覧	副査 ___名	⑤別刷り資料	教務担当	2部	
①修士論文	主査 1名	} 各1部													
②承諾書	副査 ___名														
③学位論文要旨	主査 1名	} 各1部													
④業績一覧	副査 ___名														
⑤別刷り資料	教務担当	2部													

凡例

確認	該当無し
○	—

※本シートは学位申請書類と同時に, 必ず, 学生センターに提出してください。
※本シートに記入がない場合, 及び, 記入内容が事実と異なる場合には, 学位申請を受理することができません。

学籍番号 _____ 氏名 _____ 様,

(提出者が記入のこと)

学位申請書1部, 修士論文及び承諾書各 _____ 部, 学位論文要旨, 業績一覧, 別刷り資料各 _____ 部を, 確かに受領いたしました。

年 月 日

受領印:

様式 10-5

岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科（博士後期課程） (様式 10-5)
 予備審査申請関連書類提出時チェックシート（兼受領書）

チェック項目	提出者	受領者													
0. 提出期限内の提出である。(日付を記入してください) 提出期限 年 月 日 提出日 年 月 日															
1. 学位論文予備審査申請書(様式3)に日付, 所属課程, 学籍番号, 氏名, 研究室名, 提出書類の部数が記入されている.		/													
2. 学位論文予備審査申請書(様式3)に主指導教員の承認印がある.		/													
3. 学位論文要旨(様式4-1)に日付, 所属課程, 学籍番号, 氏名, 研究室名が記入されている.		/													
4. 学位論文要旨(様式4-1)に日本語と英語の題目が記入されている.		/													
5. 要旨が様式4-1に収まらない場合, 別の用紙で様式4-2を利用して記入しており, かつ, 様式4-2にも, 学籍番号と氏名が記入されている.		/													
6. 業績一覧は研究科指定様式を用いており, 必要事項が漏れなく記入されている.		/													
7. 主たる論文等の別刷りが添付されている.		/													
8. 申請日以降に学会発表等を予定しており, 発表予定日及びそれを証明する書類(プログラム等)の写しを2部添付している.		/													
9. 査読付き論文, 国際ジャーナルへの発表論文について, 共著者がいる場合, 承諾書(様式6)に全ての共著者の押印を含む必要事項が記載されている. また, 予備審査申請書(様式3)の提出書類記載欄に承諾書が追記されている.		/													
10. これらの書類が右記の順序で添付されており, 各審査員, 教務担当にそのまま配布できるよう部毎にまとめられ, ホチキス等で綴じられている. <u>※下線部に該当する数を記入のこと.</u>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">①博士論文</td> <td style="width: 20%;">主査 1名</td> <td rowspan="2" style="width: 10%; text-align: center;">} 各1部</td> </tr> <tr> <td>②承諾書</td> <td>副査 ___名</td> </tr> <tr> <td>③学位論文要旨</td> <td>主査 1名</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">} 各1部</td> </tr> <tr> <td>④業績一覧</td> <td>副査 ___名</td> </tr> <tr> <td>⑤別刷り資料</td> <td>教務担当</td> <td style="text-align: center;">2部</td> </tr> </table>	①博士論文	主査 1名	} 各1部	②承諾書	副査 ___名	③学位論文要旨	主査 1名	} 各1部	④業績一覧	副査 ___名	⑤別刷り資料	教務担当	2部	
①博士論文	主査 1名	} 各1部													
②承諾書	副査 ___名														
③学位論文要旨	主査 1名	} 各1部													
④業績一覧	副査 ___名														
⑤別刷り資料	教務担当	2部													

凡例

確認	該当無し
○	—

※本シートは予備審査申請書類と同時に, 必ず, 学生センターに提出してください.
 ※本シートに記入がない場合, 及び, 記入内容が事実と異なる場合には, 予備審査申請を受理することができません.

学籍番号 _____ 氏名 _____ 様,

(提出者が記入のこと)

予備審査申請書1部, 博士論文及び承諾書各 _____ 部, 学位論文要旨, 業績一覧, 別刷り資料各 _____ 部を確かに受領いたしました.

年 月 日

受領印:

様式 10-6

岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究所 (博士後期課程) (様式 10-6)
学位申請関連書類提出時チェックシート (兼受領書)

チェック項目	提出者	受領者													
0. 提出期限内の提出である。(日付を記入してください) 提出期限 年 月 日 提出日 年 月 日															
1. 学位申請書(様式5)に日付, 所属課程, 学籍番号, 氏名, 生年月日, 本籍地, 研究室名, 提出書類の部数が記入されている。		/													
2. 学位申請書(様式5)に主指導教員の氏名が記入されており, 押印がある。		/													
3. 学位論文要旨(様式4-1)に日付, 所属課程, 学籍番号, 氏名, 研究室名が記入されている。		/													
4. 学位論文要旨(様式4-1)に日本語と英語の題目が記入されている。		/													
5. 要旨が様式4-1に収まらない場合, 別の用紙で様式4-2を利用して記入しており, かつ様式4-2にも, 学籍番号と氏名が記入されている。		/													
6. 業績一覧は研究科指定様式を用いており, 必要事項が漏れなく記入されている。		/													
7. 主たる論文等の別刷りが添付されている。		/													
8. 申請日以降に学会発表等を予定しており, 発表予定日及びそれを証明する書類(プログラム等)の写しを2部添付している。		/													
9. 査読付き論文, 国際ジャーナルへの発表論文について, 共著者がいる場合, 承諾書(様式6)に全ての共著者の押印を含む必要事項が記載されている。また, 学位申請書(様式5)の提出書類記載欄に承諾書が追記されている。		/													
10. これらの書類が右記の順序で添付されており, 各審査員, 教務担当にそのまま配布できるよう部毎にまとめられ, ホチキス等で綴じられている。 <u>※下線部に該当する数を記入のこと。</u>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">①博士論文</td> <td style="width: 20%;">主査 1名</td> <td rowspan="2" style="width: 10%; text-align: center;">} 各1部</td> </tr> <tr> <td>②承諾書</td> <td>副査 ___名</td> </tr> <tr> <td>③学位論文要旨</td> <td>主査 1名</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">} 各1部</td> </tr> <tr> <td>④業績一覧</td> <td>副査 ___名</td> </tr> <tr> <td>⑤別刷り資料</td> <td>教務担当</td> <td style="text-align: center;">2部</td> </tr> </table>	①博士論文	主査 1名	} 各1部	②承諾書	副査 ___名	③学位論文要旨	主査 1名	} 各1部	④業績一覧	副査 ___名	⑤別刷り資料	教務担当	2部	
①博士論文	主査 1名	} 各1部													
②承諾書	副査 ___名														
③学位論文要旨	主査 1名	} 各1部													
④業績一覧	副査 ___名														
⑤別刷り資料	教務担当	2部													

凡例

確認	該当無し
○	—

※本シートは学位申請書類と同時に, 必ず, 学生センターに提出してください。
※本シートに記入がない場合, 及び, 記入内容が事実と異なる場合には, 学位申請を受理することができません。

学籍番号 _____ 氏名 _____ 様,

(提出者が記入のこと)

学位申請書1部, 博士論文及び承諾書各 _____ 部, 学位論文要旨, 業績一覧, 別刷り資料各 _____ 部を, 確かに受領いたしました。

年 月 日

受領印:

様式 1 1

岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科（博士前期課程）

（様式 1 1）

学位申請関連書類提出期日超過事由書

年 月 日

ソフトウェア情報学研究科教務委員長 殿

ソフトウェア情報学研究科（博士 課程）

学籍番号 _____

氏 名 _____

研究室名 _____

この度、下記の事由により、（中間発表・論文題目・予備審査申請・学位申請）に関する書類の提出を期日
内に行うことができませんでした。事由を考慮いただき、関係書類を受理下さいますようお願いいたします。

記

--

主指導教員氏名

印



岩手県立大学

〒020-0693 岩手県滝沢市巣子152-52

TEL 019-694-2000(代) FAX 019-694-2001(代)

ホームページアドレス <http://www.iwate-pu.ac.jp>